

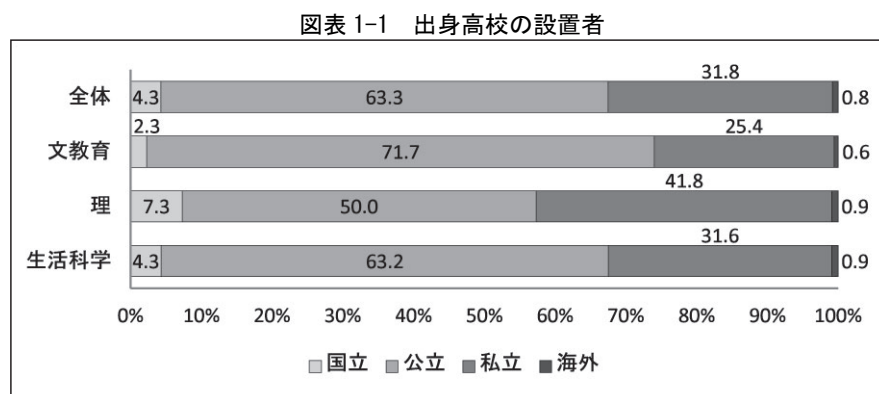
## 第1章 「新入生対象調査」の結果報告

### (1) 出身高校

本節では、本学新入生の出身高校について、①設置者、②種類、③学科、④所在地から示していく。

#### ①設置者

出身高校の設置者について、「国立」「公立」「私立」に加え、「海外」「高等学校卒業程度認定試験」別に示したものが図表 1-1 である。



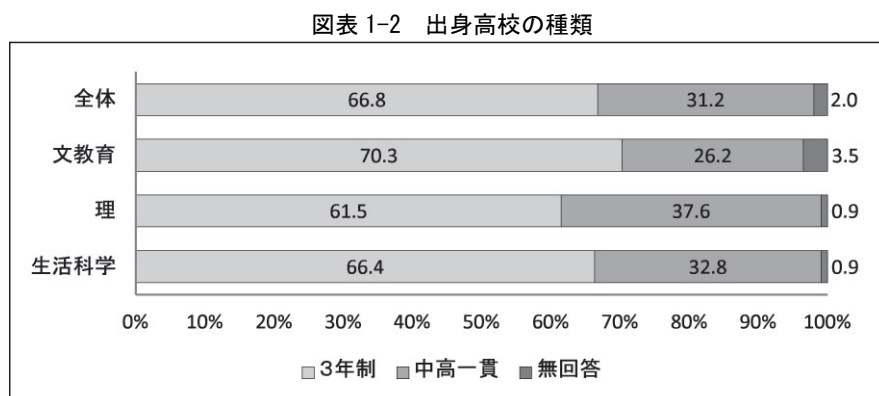
全体でみると、公立高校出身者 63.3%、私立高校出身者 31.8%、国立高校出身者 4.3% であった。この結果は、本学在学生の出身高校の設置者別比率と大きな差はみられないものである（お茶の水女子大学 2011a, P54 参照）。

平成 23 年度学校基本調査によれば、高等学校（全日制・定時制、通信制、中等教育学校、特別支援学校を含む）卒業者の設置者別比率は、国立 0.3%、公立 69.8%、私立 29.9% であり、全体でみると、本学の今年度新入生は全国水準よりも公立高校出身者の比率が低いことがわかる。ただし、平成 23 年度新入生に比べると、公立高校出身者の比率は大幅に増えている（お茶の水女子大学 2011b, P4 参照）。

学部別にみると、理学部では公立高校出身者率が低く、文教育学部では高い傾向がみられる。理学部では、平成 23 年度新入生、今年度新入生ともに、公立高校出身者率はおおよそ半数に過ぎない結果となった。

#### ②種類

出身高校の種類について、「3 年制」「中高一貫」別に示したものが図表 1-2 である。

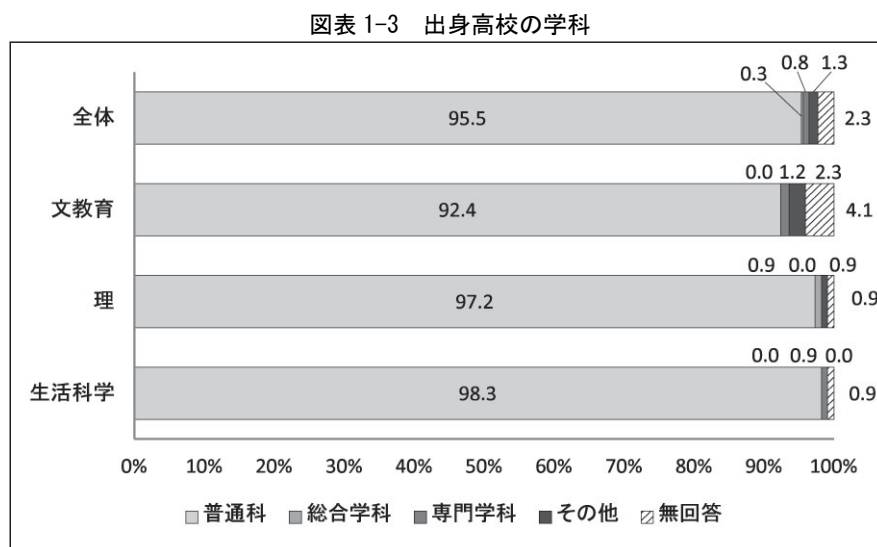


全体でみると、3年制高校出身者 66.8%、中高一貫校出身者 31.2%であった。平成 23 年度新入生に比べると、中高一貫校出身者の比率が減少している（お茶の水女子大学 2011b, P4-5 参照）。

学部別にみると、3年制高校出身者の比率は、理学部では低く、文教育学部では高いことが示されている。

### ③学科

出身高校の学科について、「普通科」「総合学科」「専門学科」「その他」別に示したものが図表 1-3 である。



全体の 95.5%が普通科出身者であり、学部別にみても、その比率に大差はみられない。平成 23 年度新入生においても 96.9%が普通科出身者であり、今年度新入生の結果と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2011b, P5）。また本学の学部生の出身学科は、普通科が 87.0%と最も多く、次いで普通系専門科が 5.4%であり（お茶の水女子大学 2011a, P54）、今年度の入学者に占める普通科出身者の比率とほぼ同様である。

ただし、平成 23 年度学校基本調査から高等学校（本科）の生徒数を学科別にみると、普通科が最も多く 72.3%を占めているが、本学新入生に占める普通科出身者の比率とは大きな隔たりがみられる。

### ④所在地

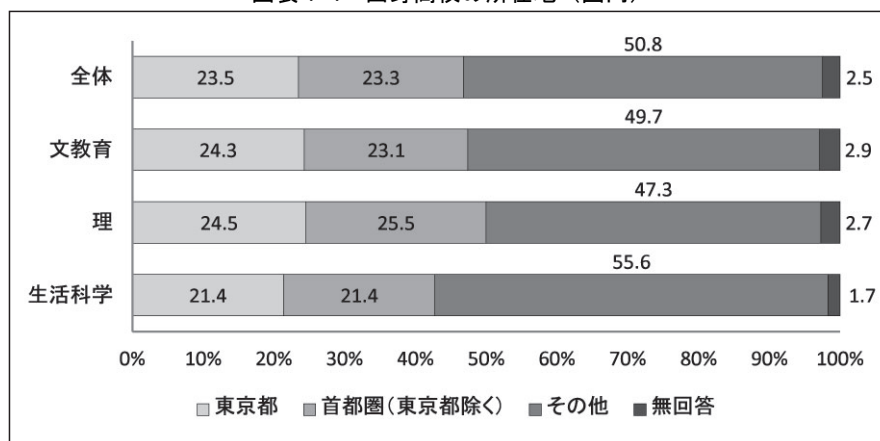
出身高校の所在地について、「国内」「海外」別に尋ねた結果、全体の 99.0%が国内の高等学校出身者であり、学部別にみても、その比率に大差はみられなかった。

さらに、「国内」と回答した者を対象に、その高校が所在する都道府県について、「東京都」「首都圏（東京都除く）」「その他」別に示したものが図表 1-4 である。

全体の 23.5%が本学の所在する東京都に所在する高校出身者であった。平成 23 年度新入生でも 25.8%が東京都に所在する高校出身者であり、今年度新入生の結果と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2011b, P6）。

ただし平成 23 年度学校基本調査によれば、大学への入学者数の「出身高校の所在地県」と「入学した大学の所在地県」との関係を見ると、「自県（大学の所在地県と同一県）内の高校から入学した者の比率」は 41.9%、女子に関しても 44.4%であることから、本学新入生は、全国水準よりも自県内の高校出身者の比率が明らかに少ないことがわかる。

図表 1-4 出身高校の所在地（国内）



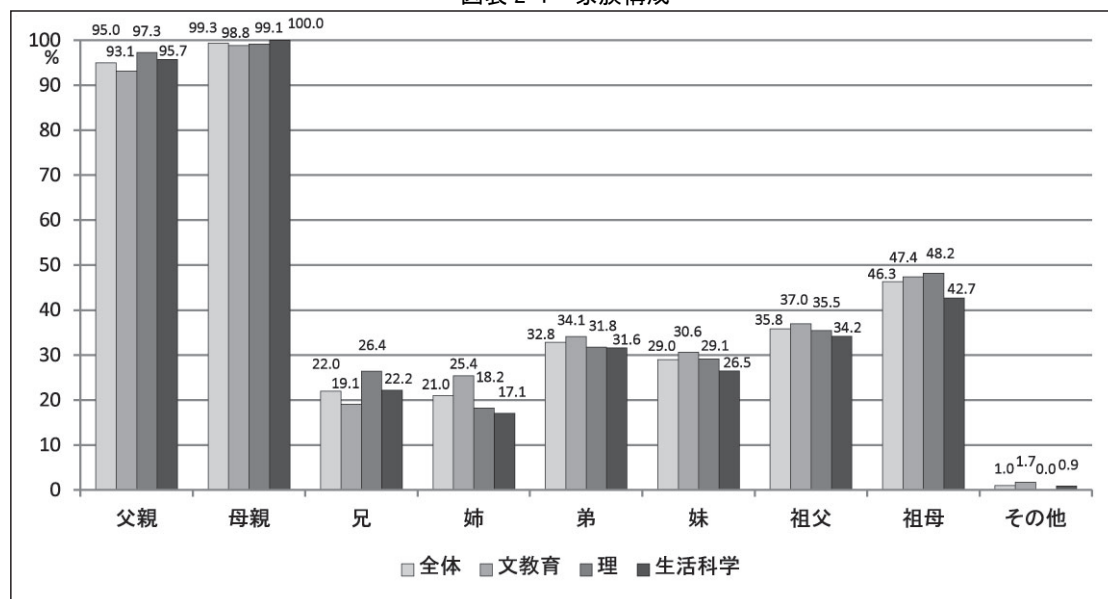
## (2) 家族構成

本節では、本学新入生の家族構成について、①家族の構成、②兄弟姉妹の構成、③出生順位、④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数、⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数から示していく。

### ①家族の構成

本学新入生の家族構成について、「父親」「母親」「兄」「姉」「弟」「妹」「祖父」「祖母」「その他」から、あてはまるものを複数回答可として尋ねた結果が図表 2-1 である。

図表 2-1 家族構成



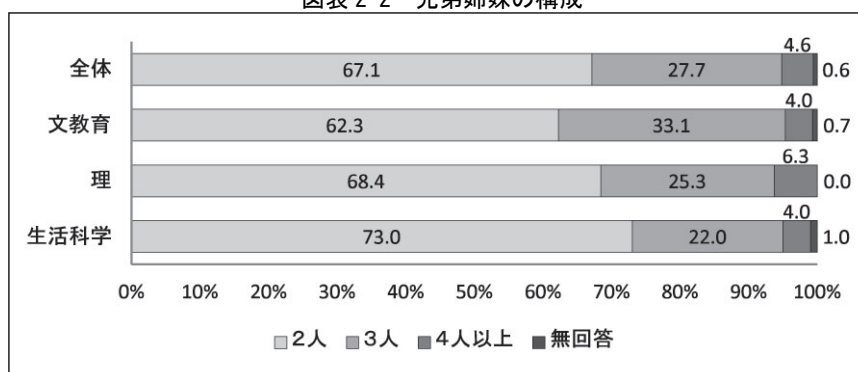
全体でみると、兄弟姉妹がいない「一人っ子」は 13.5%であり、平成 23 年度新入生と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2011b, P7 参照）。

ただし、平成 23 年度新入生では生活科学部での「一人っ子」が他学部比べて少ない結果が示されていたが、今年度新入生では、学部別でみても大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学 2011b, P7 参照）。

### ②兄弟姉妹の構成

「兄」「弟」「姉」「妹」いずれかに回答した者（本学新入生の 86.5%が該当）に対し、その人数（自分も含めて）を尋ねた結果が図表 2-2 である。

図表 2-2 兄弟姉妹の構成

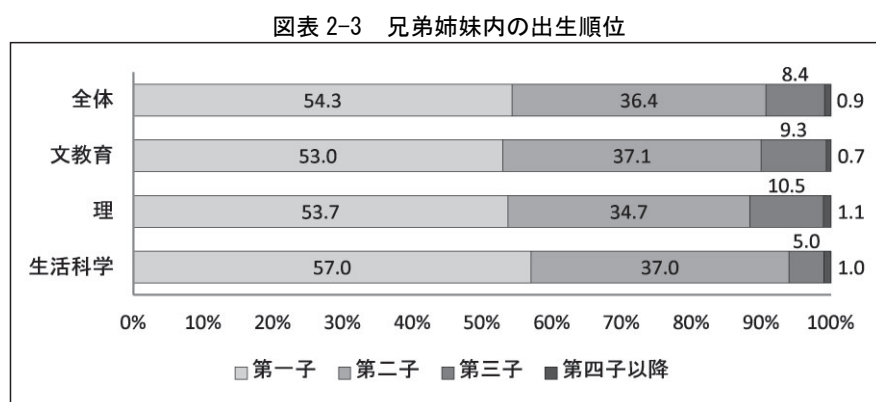


全体でみると、「2人」が67.1%と最も多くを占め、次いで「3人」が27.7%であり、平成23年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学2011b, P7-8 参照）。

ただし、平成23年度新入生では学部別の差異もみられなかったが（お茶の水女子大学2011b, P7-8 参照）、今年度新入生では、兄弟姉妹数が多い学生の比率の高さが文教育学部でみられる結果となった。

### ③兄弟姉妹がいる中での出生順位

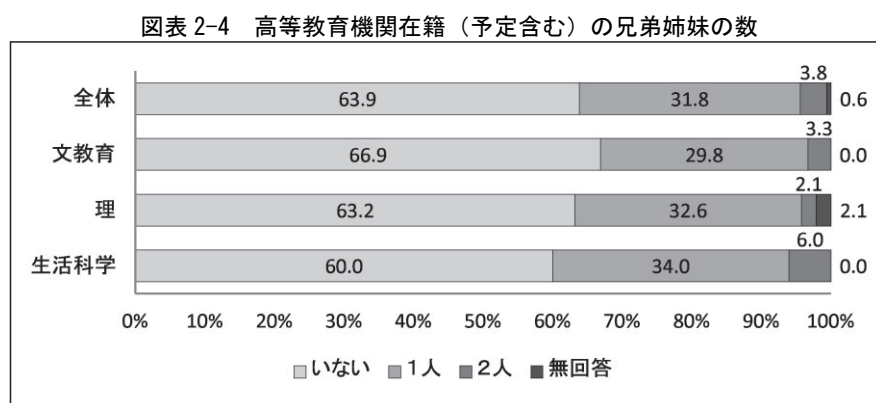
図表2-3は、「兄」「弟」「姉」「妹」いずれかに回答した者に対して、その構成内での出生順位について尋ねた結果である。



全体でみると、「第一子」は54.3%であり、「一人っ子」が13.5%であると考え合わせると（P7 参照）、本学の新入生は、全体の67.8%が第一子であることがわかる。平成23年度新入生でも65.7%が第一子であり、今年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学2011b, P8）。

### ④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

図表2-4は、大学（大学院）・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数を尋ねた結果である。

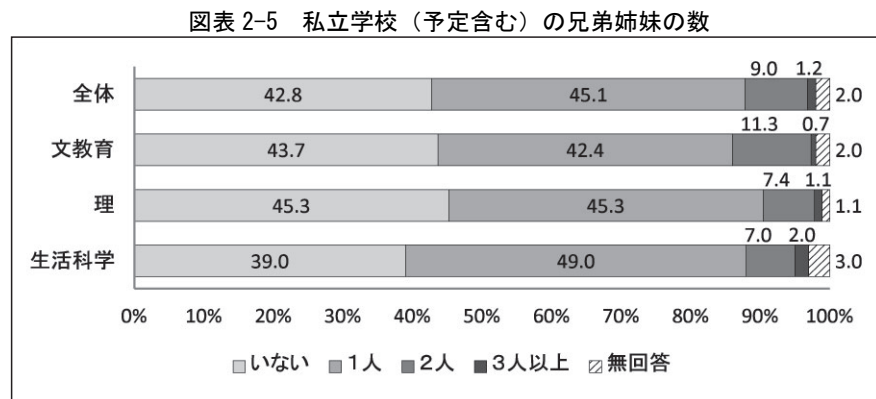


全体の31.8%が「1人」、3.8%が「2人」であり、平成23年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学2011b, P8 参照）。

平成23年度新入生では、高等教育機関に在籍する（予定含む）兄弟姉妹が、回答者以外にいる比率が、生活科学部で高いことが示されていたが（お茶の水女子大学2011b, P8 参照）、今年度新入生でも同様の傾向がみられた。

### ⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

図表 2-5 は、私立の大学（大学院）・短期大学・高校・中学・小学校に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数について尋ねた結果である。



全体の 45.1%が「1 人」、9.0%が「2 人」、1.2%が「3 人以上」であり、平成 23 年度新入生の結果と大きな差異はみられなかった（お茶の水女子大学 2011b, P9 参照）。

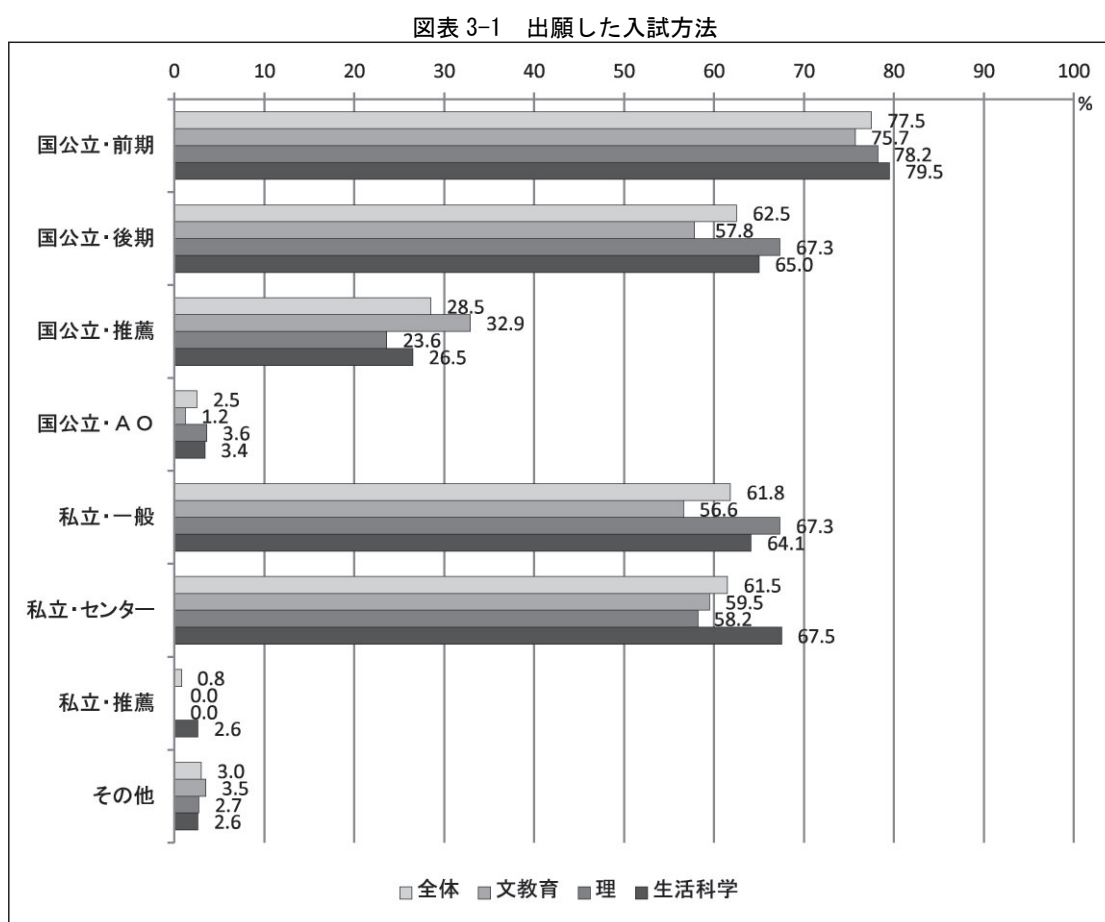
先に私立高校出身者の比率が理学部で高いことを示したが（図表 1-1 参照）、図表 2-5 からは、理学部では私立学校に通う兄弟姉妹が「いない」比率が他学部よりやや多いことがうかがえる。平成 23 年度新入生では、理学部では他学部に比べて兄弟姉妹も私立学校に通う家庭が多いことが示されており（お茶の水女子大学 2011b, P9 参照）、今年度新入生の傾向とは異なる結果となった。

### (3) 本学への志望

本節では、本学新入生の本学への志望について、①出願した入試方法、②本学以外に合格した大学・学部、③本学の受験を決めた時期、④本学の志望の度合、⑤本学を選んだ理由から示していく。

#### ①出願した入試方法

本学の新入生が出願した入試方法（他大学も含めて）について、「国公立大学・前期日程」「国公立大学・後期日程」「国公立大学・推薦入試」「国公立大学・AO入試」「私立大学・一般入試」「私立大学・センター入試」「私立大学・推薦入試」「私立大学・AO入試」「その他」から、あてはまるものを複数回答可として尋ねた結果が図表 3-1 である。



全体でみると、国公立大学については、前期日程出願者 77.5%、後期日程出願者 62.5%、推薦入試出願者 28.5%、AO入試出願者 2.5%であった。私立大学については、一般入試出願者 61.8%、センター入試出願者 61.5%、推薦入試出願者 0.8%であった。

平成 23 年度新入生の出願状況と比べると、国公立大学はほぼ同様の結果であったが、私立大学では、今年度新入生の方が出願率は高い結果となった（お茶の水女子大学 2011b, P10 参照）。

学部別にみると、文教育学部では国公立大学・前期および後期日程の出願の比率が他学部比べて低い傾向もみられた。この傾向は、平成 23 年度新入生においても同様にみられるものである（お茶の水女子大学 2011b, P10 参照）。

## ②本学以外に合格した大学・学部

本学以外に合格した大学について 3 大学まで尋ね、延べ人数の上位 10 校を示したものが図表 3-2 である（合格大学の詳細は、付表 5 をご参照ください）。

図表 3-2 本学以外に合格した大学 (人)

	全体	文教育学部	理学部	生活科学部
1	明治大学 (78)	早稲田大学 (41)	東京理科大学 (44)	明治大学 (34)
2	早稲田大学 (73)	津田塾大学 (35)	明治大学 (15)	日本女子大学 (31)
3	立教大学 (71)	立教大学 (35)	上智大学 (14)	立教大学 (22)
4	東京理科大学 (51)	明治大学 (29)	立教大学 (14)	早稲田大学 (21)
5	津田塾大学 (50)	上智大学 (16)	早稲田大学 (11)	津田塾大学 (10)
6	日本女子大学 (42)	東京女子大学 (13)	中央大学 (8)	青山学院大学 (9)
7	上智大学 (37)	立命館大学 (10)	日本女子大学 (7)	法政大学 (9)
8	青山学院大学 (23)	慶應義塾大学 (9)	青山学院大学 (6)	東京農業大学 (8)
9	中央大学 (23)	中央大学 (9)	慶應義塾大学 (5)	上智大学 (7)
10	法政大学 (20)	青山学院大学 (8)	津田塾大学 (5)	中央大学 (6)
			法政大学 (5)	

全体でみると、明治大学が 78 名と最も多く、続いて早稲田大学、立教大学の順になっている（平成 23 年度新入生は、早稲田大学と明治大学が同数で最も多く、次いで立教大学、日本女子大学、上智大学の順であった（お茶の水女子大学 2011b, P11 参照））。

学部別にみると、文教育学部では、早稲田大学が 41 名と最も多く、津田塾大学・立教大学、明治大学と続いている。理学部では、東京理科大学が 44 名と明らかに多く、続いて、明治大学、上智大学・立教大学の順となっている。生活科学では、明治大学が 34 名と最も多く、日本女子大学、立教大学、早稲田大学が続く結果となった。

同様に、本学の学部以外に合格した学部について 3 学部まで尋ね、延べ人数の上位 5 学部を示したものが図表 3-3 である（合格学部の詳細は、付表 5 参照）。

図表 3-3 本学以外に合格した学部 (人)

	全体	文教育学部	理学部	生活科学部
1	理工学部 (70)	学芸学部 (35)	理工学部 (62)	家政学部 (35)
2	学芸学部 (50)	現代教養学部 (13)	理学部 (44)	学芸学部 (10)
3	理学部 (50)	法学部 (11)	教育学部 (6)	法学部 (9)
4	家政学部 (37)	教育学部 (8)	農学部 (6)	教育人間科学部 (9)
5	法学部 (21)	文化構想学部 (7)	学芸学部 (5)	応用生物科学部 (8)
			工学部 (5)	社会学部 (8)
			薬学部 (5)	政治経済学部 (8)

全体でみると、理工学部が 70 名と最も多く、続いて学芸学部・理学部、家政学部、法学部がそれに続いている（平成 23 年度新入生は、文学部、理学部、学芸学部、理工学部、農学部の順であった（お茶の水女子大学 2011b, P11 参照））。

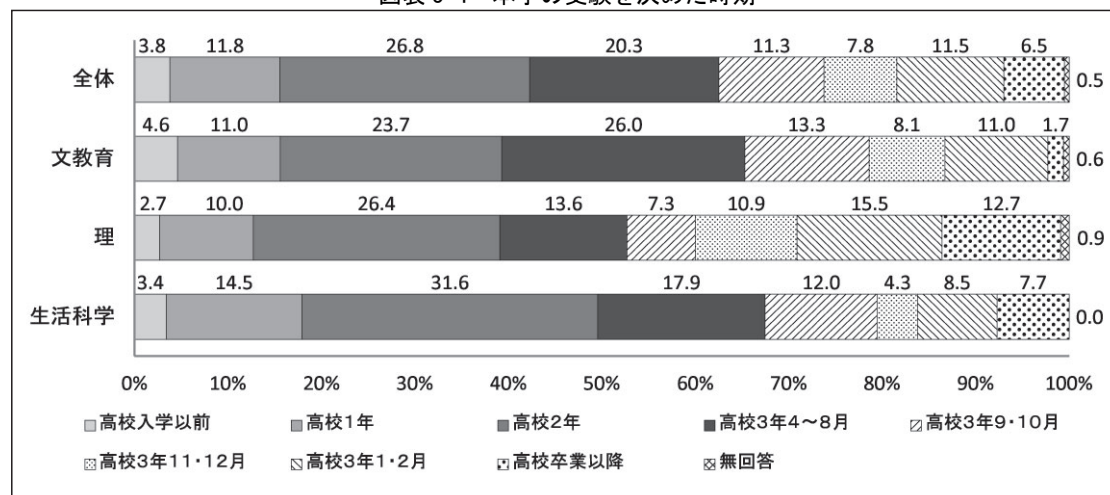
学部別にみると、文教育学部では、学芸学部が 35 名と明らかに多く、現代教養学部、法学部がそれに続いている。理学部では、理工学部が 62 名と明らかに多く、理学部がそれに続いている。生活科学では、家政学部が 35 名と最も多く、学芸学部、法学部・教育人間科学部がそれに続く結果となった。生活科学部では、さまざまな学部との併願が示されている。



### ③本学の受験を決めた時期

本学の受験を決めた時期について、「高校入学以前」「高校1年」「高校2年」「高校卒業以降」に加え、「高校3年」に関しては、その時期を「4～8月」「9・10月」「11・12月」「1・2月」に分けて尋ねた結果が図表3-4である。

図表3-4 本学の受験を決めた時期



平成23年度新入生では、「高校3年4～8月」「高校2年」の順に多いことが示されていたが（お茶の水女子大学2011b, P11-12 参照）、今年度の新入生は、「高校2年（26.8%）」「高校3年4～8月（20.3%）」の順となり、より早期に本学の受験を決めた学生が増えていることがわかる。

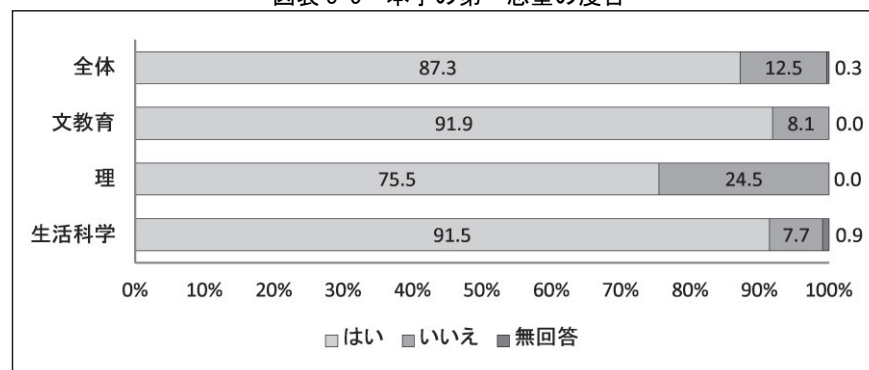
Benesse 教育研究開発センターが2008年に実施した「大学生の学習・生活実態調査」によれば（Benesse 教育研究開発センター2009, P42）、大学進学を意識し始めた時期は「高校2年生の頃」が最も多く、次いで「高校3年生の頃」である。本学の新生は、その時期にはすでに本学の受験を決めていた者が多く、全国水準よりも大学進学や受験校を選択・決定した時期が早いことがうかがえる。

ただし、学部により、本学の受験を決めた時期には多少の差異がみられ、理学部では、「高校3年1・2月（15.5%）」も多く、センター試験の結果をみてから、本学の受験を決めた学生も少なからずみられる。その一方で、生活科学部では「高校1年（14.5%）」「高校2年（31.6%）」といったより早期の時期から、本学の受験を決めていた学生も目立つ。

### ④本学の志望の度合い

図表3-5は、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果である。

図表3-5 本学の第一志望の度合い

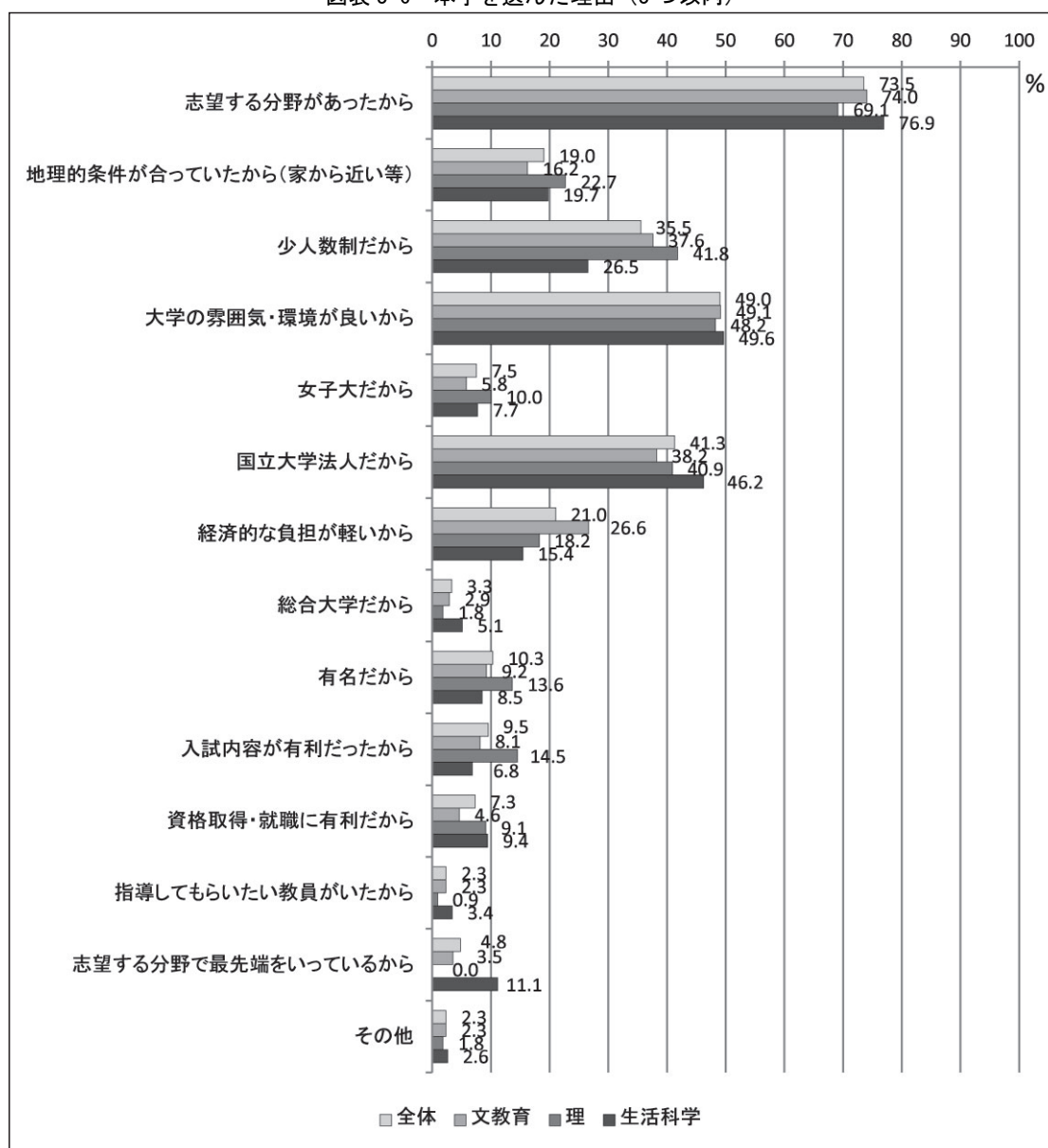


平成 23 年度新入生の 86.1%が受験時には本学を第一志望とし、学部別にみてもその比率に大差はみられない結果であったのに対し（お茶の水女子大学 2011b, P12 参照）、今年度の新入生は、全体でみれば平成 23 年度新入生の結果と大きな差異はみられないが、理学部での第一志望の比率の低下が際立っている（平成 23 年度新入生では 88.1%）。ただし、本学を第一志望として入学している学部生は、文教育学部 67.8%、理学部 52.8%、生活科学部 76.6%であり（お茶の水女子大学 2011a, P56）、今年度の新入生と同様に理学部での第一志望の比率が低い傾向が示されている。

#### ⑤本学を選んだ理由（自分の学力や入試の難易度以外）

図表 3-6 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、自分の学力や入試の難易度以外に、本学を選んだ理由について 3 つ以内の回答を求めた結果である。

図表 3-6 本学を選んだ理由（3 つ以内）

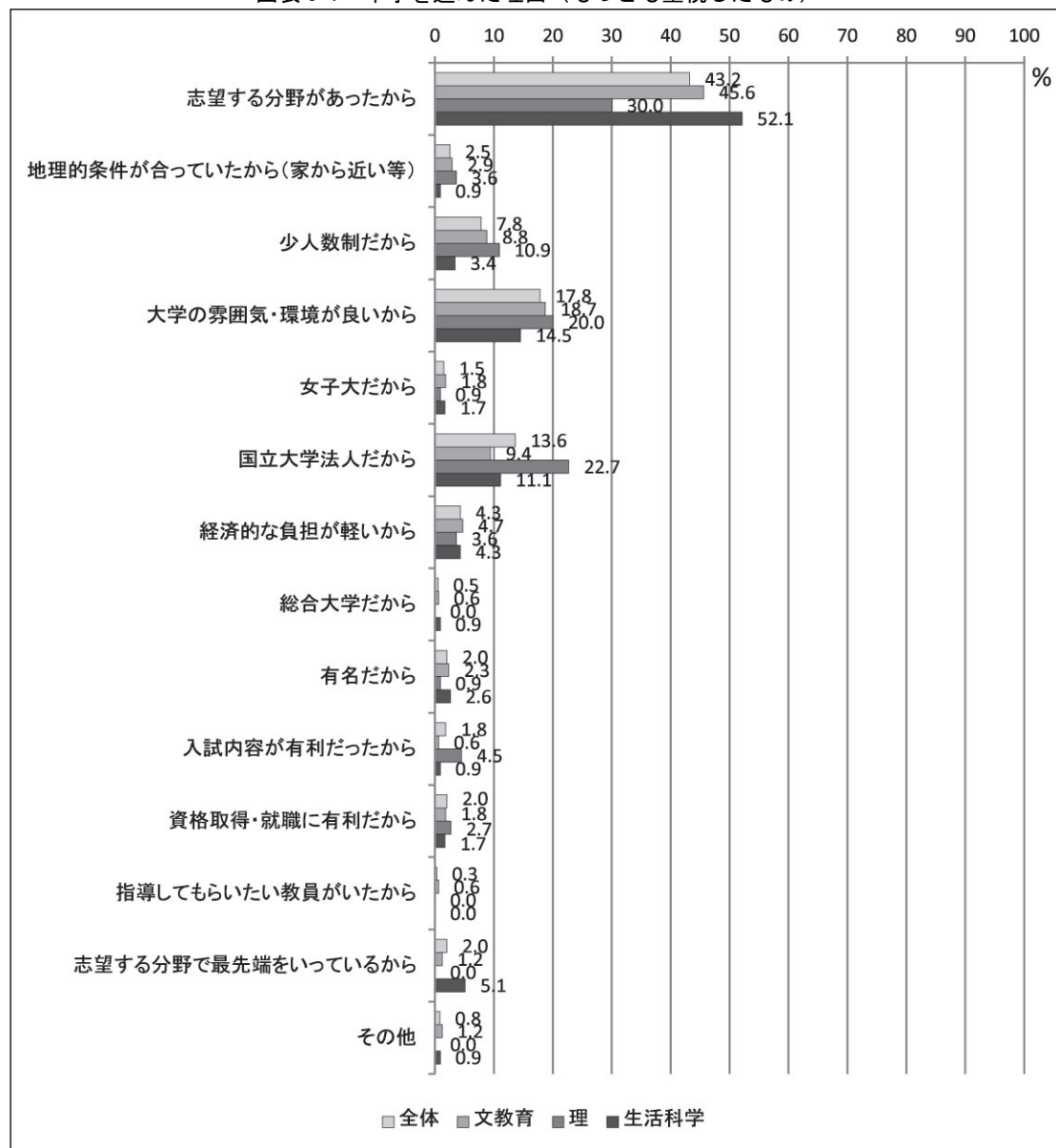


全体でみると、「志望する分野があったから」が最も多く、「大学の雰囲気・環境が良いから」「国立大学法人だから」が続く結果となった。この順は、平成 23 年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2011b, P13 参照）。

なお、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」によれば、本学を選んだ理由（多項選択・3 つ以内）としては、「国立大学法人だから」が最も多く、この結果はいずれの学部でも示されている（お茶の水女子大学 2011a, P58-59）。

さらに、図表 3-7 は、自分の学力や入試の難易度以外で本学を選んだ理由として、最も重視したものについて尋ねた結果である。

図表 3-7 本学を選んだ理由（もっとも重視したもの）



図表 3-6 同様、全体でみると「志望する分野があったから」が最も多いが、平成 23 年度新入生においても同様の結果であった（お茶の水女子大学 2011b, P14 参照）。ただし、学部別にみると、理学部での該当率の低さが目立つ。この傾向についても、平成 23 年度新入生調査で同様の結果が示されている（お茶の水女子大学 2011b, P14 参照）。

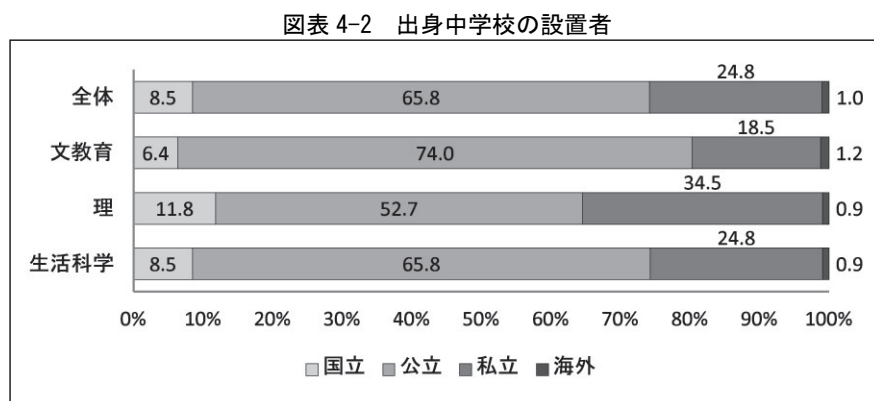
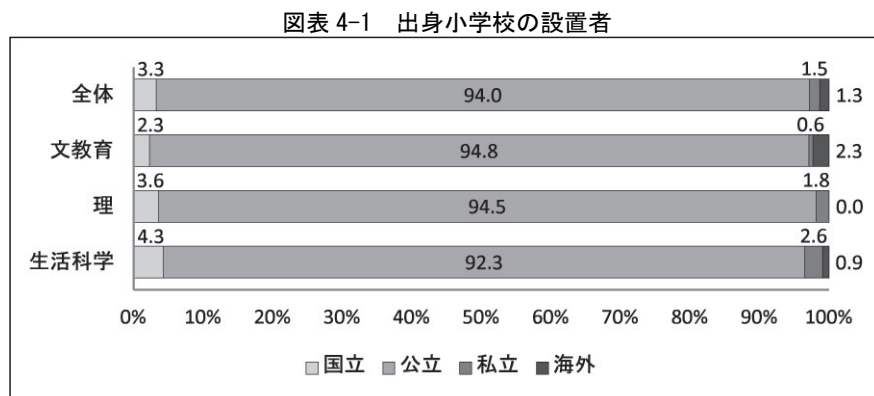
次いで「大学の雰囲気・環境が良いから」「国立大学法人だから」が続いている、この順も、平成 23 年度新入生の結果と同様である（お茶の水女子大学 2011b, P14 参照）。

#### (4) これまでの進路選択や学生生活

本節では、本学新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①出身小学校・中学校の設置者、②これまでの受験経験、③大学進学にむけての取り組み、④大学受験の対策として利用したもの、⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと、⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動から示していく。

##### ①出身小学校・中学校の設置者

図表 4-1 は出身小学校の設置者について、図表 4-2 は出身中学校の設置者について、それぞれ「国立」「公立」「私立」「海外」別に尋ねた結果である。



全体でみると、公立小学校出身者が 94.0%、公立中学校出身者が 65.8%と最も多く、小学校では国立、私立、中学校では私立、国立と続いている。小学校、中学校ともに、平成 23 年度新入生よりも公立校出身者の比率が高い（お茶の水女子大学 2011b, P15 参照）。

ただし、平成 23 年度学校基本調査によれば、小学校の児童数（全学年）の設置者別の比率は、国立 0.7%、公立 98.1%、私立 1.2%であり、本学新入生は全国水準よりも国立および私立小学校出身者の比率が高く、公立小学校出身者の比率が低いことがわかる。

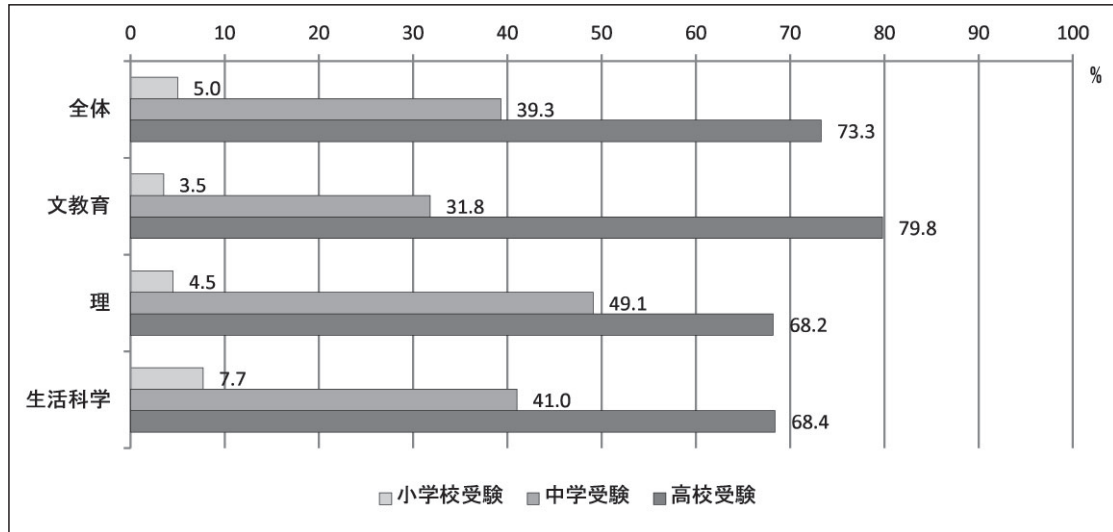
同様に中学校の生徒数（全学年）の設置者別の比率は、国立 0.9%、公立 92.0%、私立 7.1%であり、本学新入生は、小学校同様、全国水準よりも国立および私立中学校出身者の比率が明らかに高く、公立中学校出身者の比率は明らかに低いことがわかる。

学部別にみると、出身中学校に関しては、理学部での公立中学校出身者の比率の低さが示されている。

##### ②これまでの受験経験

図表 4-3 は、小学校・中学校・高校のそれぞれに入学するための受験の経験について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 4-3 これまでの受験の経験



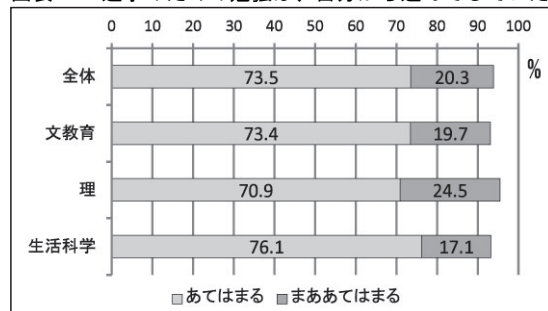
平成 23 年度新入生では、全体の 10.1%が小学校受験を経験し、39.9%が中学受験を経験しているなど、低年齢時での受験経験者が多いことが示されていた（お茶の水女子大学 2011b, P16）。しかし今年度の新入生は、小学校受験、中学受験ともに受験経験率が低下しており、いずれの学部でもこの傾向がみられた。

とはいえ、「大学生の学習・生活実態調査」によれば（Benesse 教育研究開発センター 2009, P40-41）、中学受験経験率 18.8%、高校受験経験率 86.3%であり、本学新入生の受験経験状況とは依然として大きな隔たりがある。

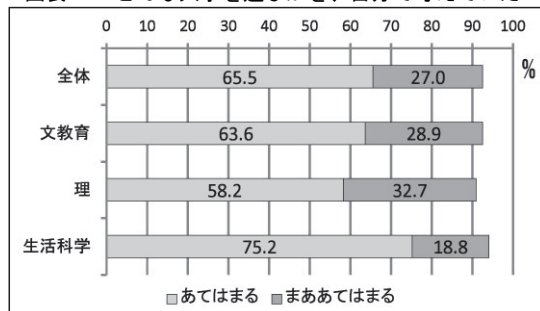
### ③大学進学にむけての取り組み

「大学進学にむけての取り組み」に関する 15 項目を設定し、それぞれについて 5 件法で尋ねた結果、全体での該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）が 90%を超えている項目は以下の 6 項目であった（図表 4-4 から図表 4-9）。

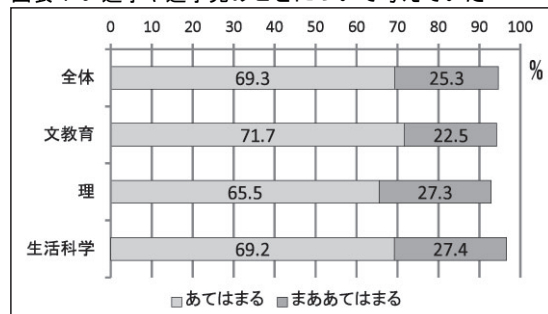
図表 4-4 進学のための勉強は、自分から進んでしていた



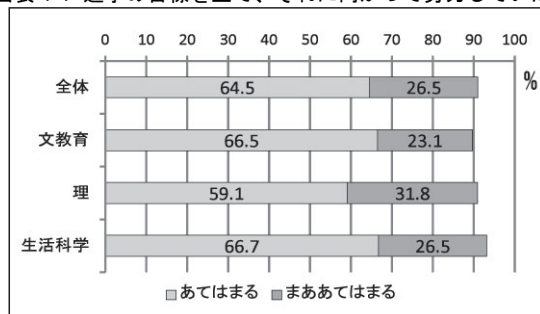
図表 4-5 どんな大学を選ぶかを、自分で考えていた



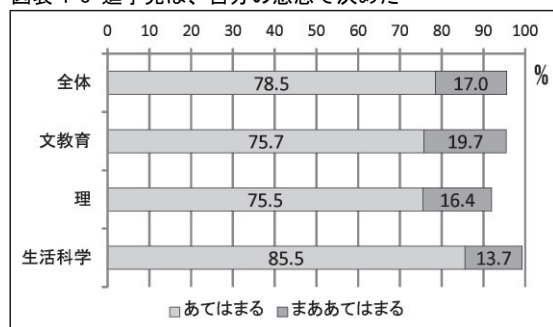
図表 4-6 進学や進学先のことについて考えていた



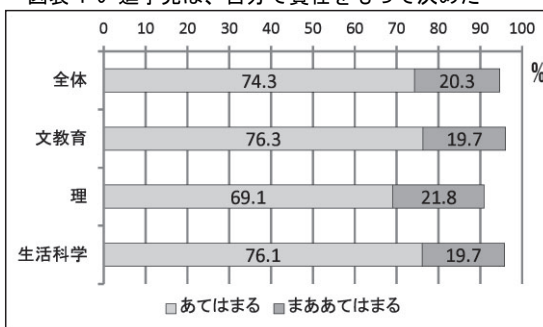
図表 4-7 進学目標を立て、それに向かって努力していた



図表 4-8 進学先は、自分の意思で決めた



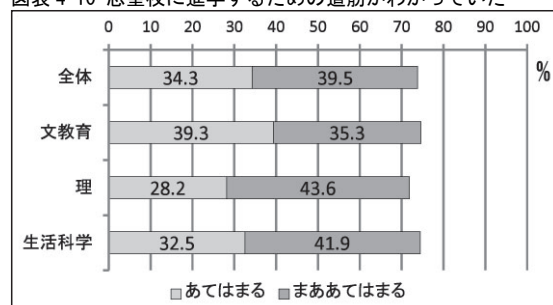
図表 4-9 進学先は、自分で責任をもって決めた



以上の結果からは、本学の新入生は進学に対する関心が高く、そのための努力も重ね、また、進学先の選択に対する自律性も高い学生が非常に多いことがわかる。こうした傾向は平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P17 参照）。

これに対し、全体での該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）が 80%に及ばない項目は以下の 1 項目であった（図表 4-10）。この項目は、平成 23 年度新入生でも該当率が 80%に及ばない結果となっている（お茶の水女子大学 2011b, P17 参照）。

図表 4-10 志望校に進学するための道筋がわかっていた



上記からは、本学の新入生は進学や進学先に対する関心や自律性が高く、そのための努力も重ねてきた一方で、志望校に進学するための具体的な道筋の理解は他の取り組みに比べて低い学生が多いものと思われる。

#### ④大学受験の対策として利用したもの

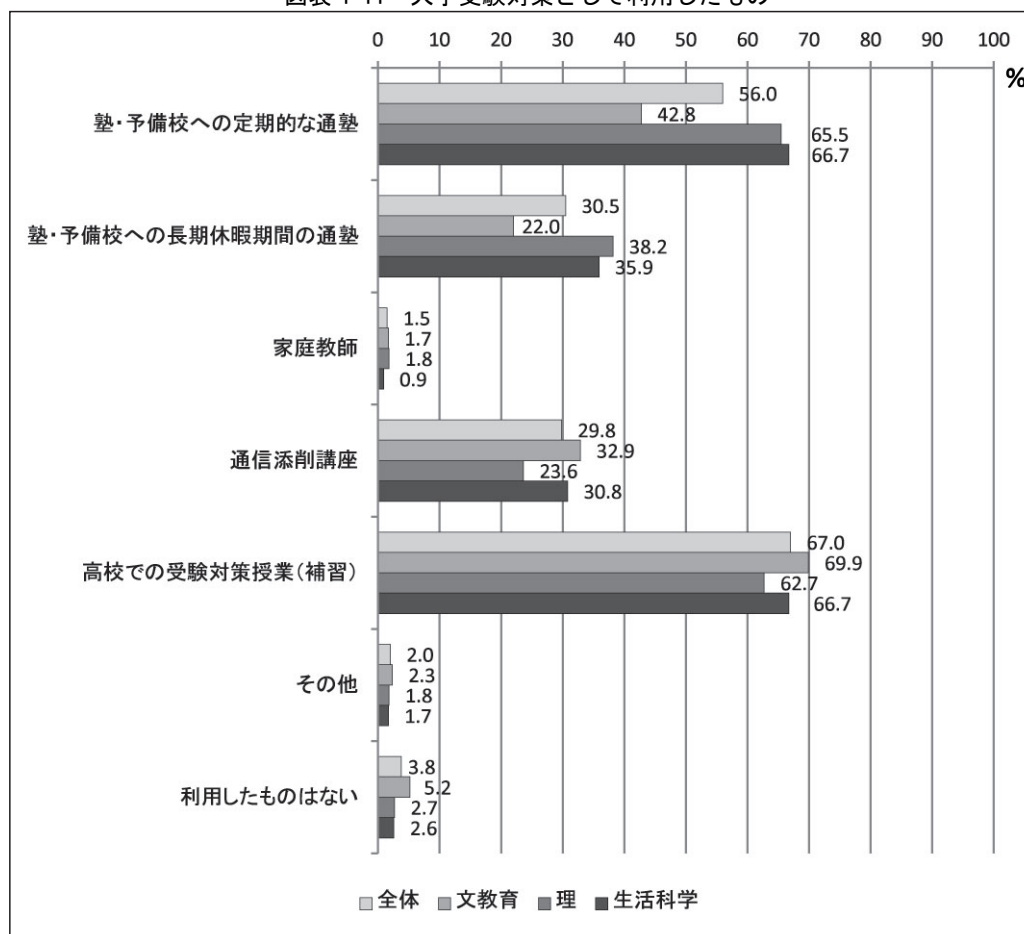
図表 4-11 は、大学受験の対策として利用したものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

全体でみると、「高校での受験対策授業（補習）」が最も多く、「塾・予備校への定期的な通塾」「塾・予備校への長期休暇期間の通塾」「通信添削講座」が続く結果となった。この順は、平成 23 年度新入生の結果でも同様である（お茶の水女子大学 2011b, P17-18 参照）。

学部別にみると、入試形態の違いもあってか、文教育学部では「塾・予備校への定期的な通塾」「塾・予備校への長期休暇期間の通塾」の利用が、理学部では「通信添削講座」の利用が、他学部に比べて低い傾向もみられる。こうした傾向は、平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P17-18 参照）。



図表 4-11 大学受験対策として利用したもの



### ⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在（調査時期の大学入学前年度 3 月）までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 4-12 である。

図表 4-12 高校卒業から現在までの間に経験したこと

	他の高等教育機関に入学した	フルタイムで働いた	浪人した	海外留学をした	この中にはない	無回答
全体	0.5	0.0	14.8	0.0	76.3	8.8
文教育	0.6	0.0	9.2	0.0	83.8	6.4
理	0.9	0.0	15.5	0.0	76.4	8.2
生活科学	0.0	0.0	22.2	0.0	65.0	12.8

「浪人した」以外の項目は、いずれも全体の 1%に満たない、ごくわずかな経験率であり、いずれの学部でも同様の結果であった。

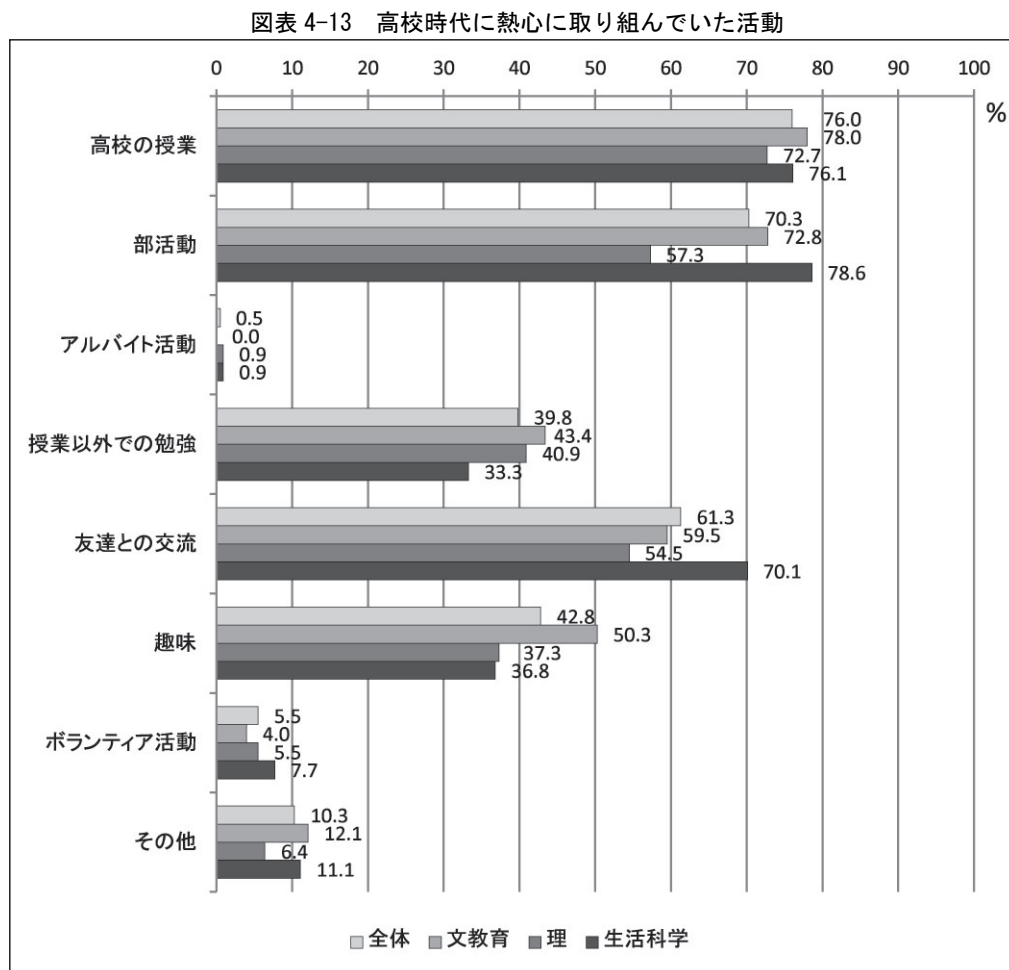
「大学生の学習・生活実態調査」によれば（Benesse 教育研究開発センター2009, P26-27）、女子学生の浪人をした経験率は 11.4%であるが、今年度新入生の浪人経験者は全体の 14.8%とやや高めであることがわかる。ただし、文教育学部では 9.2%と全国水準より低いのにに対し、理学部では 15.5%、生活科学部では 22.2%と全国水準より明らかに高いなど、学部によりその傾向に差異がみられる。平成 23 年度新入生でも学部による傾向が示されたが、そこでは生活科学部での浪人経験率が目立つ結果であった（お茶の水女子大学 2011b, P18 参照）。

また、「大学生の学習・生活実態調査」によれば（Benesse 教育研究開発センター

2009, P26-27)、他の高等教育機関に入学した経験率は 3.2%、海外留学をした経験率は 3.5%に及んでおり、両者ともに、本学新入生の経験率よりも高い。この傾向は、平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P18 参照）。

## ⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動

図表 4-13 は、高校時代に熱心に取り組んでいた活動について、複数回答可として尋ねた結果である。



全体でみると、「高校の授業」「部活動」「友達との交流」の順に高く、これらは 6 割をこえている。この順は、平成 23 年度新入生でも同様に示さ 7 割を超えており、今年度新入生より高い結果であった（お茶の水女子大学 2011b, P19 参照）。

学部別にみると、上記のいずれの活動も理学部の低さが示されている。この傾向は、平成 23 年度新入生でもほぼ同様にみられたものである（お茶の水女子大学 2011b, P19 参照）。



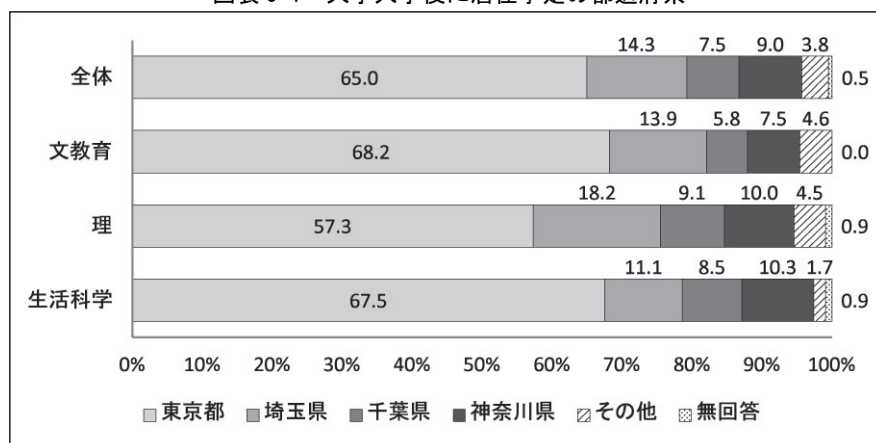
## (5) 大学入学後の生活の予定

本節では、本学新入生の大学入学後の生活の予定について、①大学入学後の居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧奨学金・学費免除制度の認知、⑨本学の学生寮に対する認知、⑩大学生活での不安・心配事、⑪本学の学生支援活動への期待から多面的に示していく。

### ①大学入学後に居住予定の都道府県

図表 5-1 は、大学入学後に居住予定の都道府県を尋ね、本学の所在地である「東京都」、隣接している「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」、「その他の県」別に示した結果である。

図表 5-1 大学入学後に居住予定の都道府県



全体でみると、「東京都」が最も多く、「埼玉県」「神奈川県」「千葉県」と続いている。この順は、平成 23 年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2011b, P20 参照）。

ただし、平成 23 年度新入生では、学部による大きな差異はみられなかったが（お茶の水女子大学 2011b, P20 参照）、今年度の新入生では、理学部の「東京都」居住予定者の比率が他の学部比べて低い結果となった。

先に、本学新入生のうち、「東京都」の高校出身者は 23.5%であることを示したが（図表 1-4 参照）、本学新入生の 65.0%が「東京都」に居住予定であることから、親元を離れて本学に通学する予定の学生が多いことがうかがえる。この傾向は、平成 23 年度新入生においても同様に示されている。

こうした点からは、本学では、学内での支援のみならず、学外での生活等も視野に入れた支援が必要であるものと思われる。

### ②大学入学後の住居の予定

図表 5-2 は、大学入学後に予定している住居について、「実家」「実家以外の賃貸アパートやマンション」に加え、本学の学生寮である「国際学生宿舎」「お茶大 SCC<sup>1</sup>」、「大学以外の寮」「その他」の中から、複数回答可として尋ねた結果である。

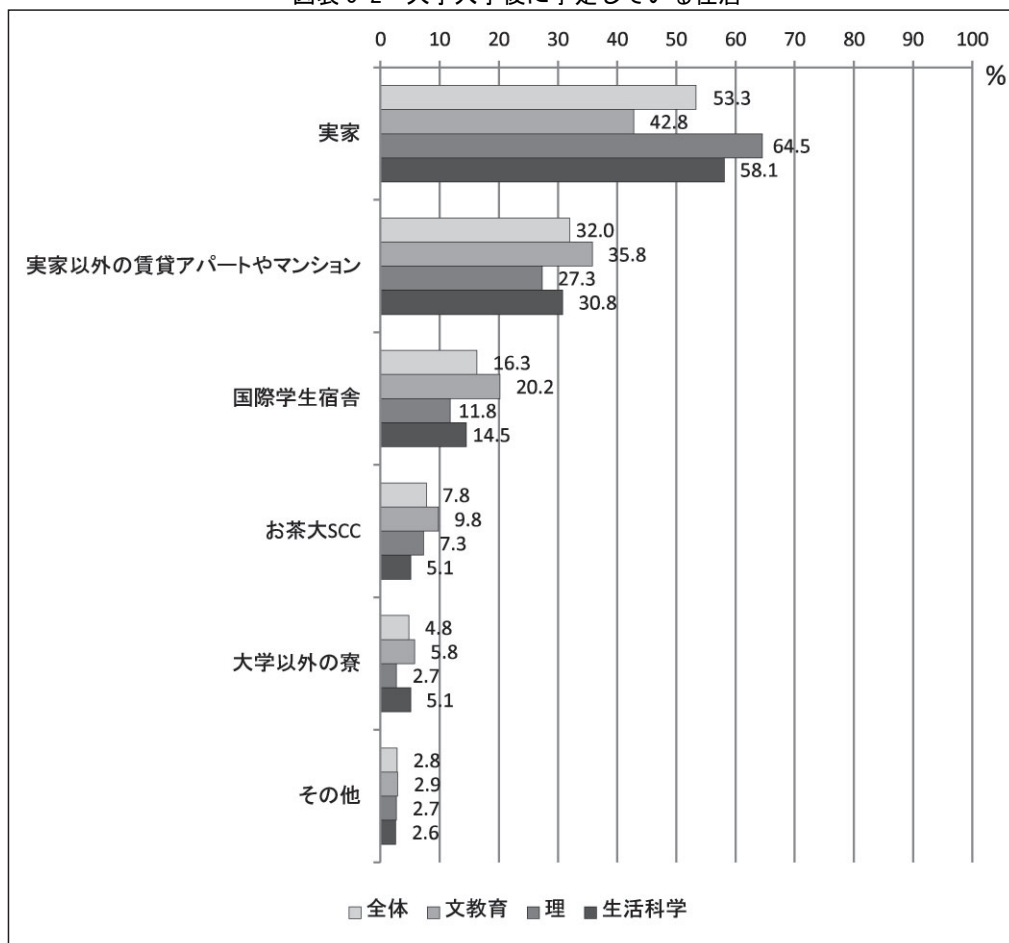
全体でみると、「実家」が過半数を占めており、次いで、「実家以外の賃貸アパートやマンション」、「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」といった学生寮が続いている。この順は、平成 23 年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2011b, P21 参照）。

学部別にみると、文教育学部では「実家」が他学部比べて低い傾向が示されている。

<sup>1</sup> 学部 1・2 年生を対象として、平成 23 年 3 月に完成した新しい学生寮である。「SCC」は、Students Community Commons の略で、学生が共に生活し、共に成長する場所をあらわしている。詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/gss/ochadaiscc/concept/index.html>。

これは平成 23 年度新入生には示されていない結果である(お茶の水女子大学 2011b, P21 参照)。

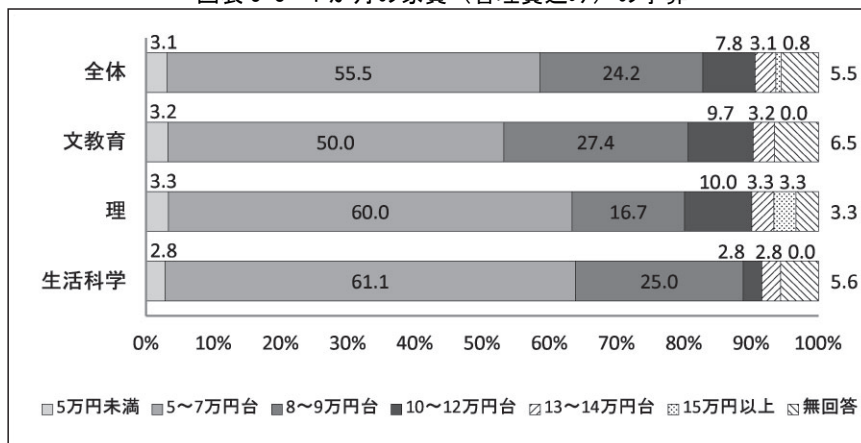
図表 5-2 大学入学後に予定している住居



### ③1 か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 5-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。

図表 5-3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

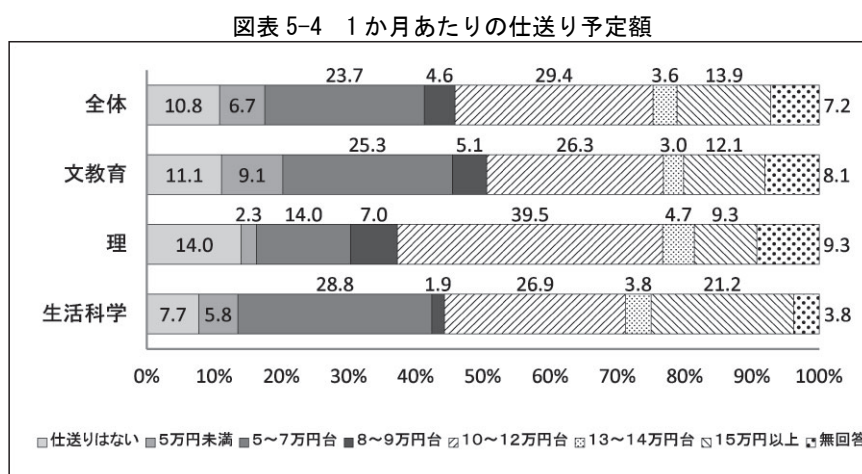


全体でみると、「5～7 万円」が最も多く過半数を占め、次いで「8～9 万円」が続いてい

ることから、およそ 8 割の学生が 1 か月の家賃として 5～9 万円を予定していることがわかる。平成 23 年度新入生もほぼ同様の状況であった（お茶の水女子大学 2011b, P21 参照）。全国大学生生活協同組合連合会が 2011 年度に実施した「学生の消費生活に関する実態調査」によれば（全国大学生生活協同組合連合会 2012, P13）、下宿生のうち、1 都 3 県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）の 1 か月の住居費平均は 60,730 円であり、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の本学新入生の家賃の予算と大きな隔たりはないものと思われる。

#### ④1 か月あたりの仕送り予定額

図表 5-4 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。



全体でみると、「10～12 万円」が最も多くおよそ 3 割に及んでおり、次いで「5～7 万円」「15 万円以上」が続いている。その一方で、「仕送りはない」「5 万円未満」といった回答も少なからずみられ、「仕送りはない」は平成 23 年度新入生の結果よりも増えている（お茶の水女子大学 2011b, P22 参照）。

「学生の消費生活に関する実態調査」によれば（全国大学生生活協同組合連合会 2012, P8）、下宿生のうち、仕送り「10 万円以上」は 39.4%と、この 10 年でほぼ半減している一方で、仕送り「0」の割合は 10.1%と引き続き 1 割を超えており、5 万円未満層も 25.1%と昨年度同様 25%を超えている。

本学でも、奨学金制度や学生寮の整備といった生活・経済的支援の充実は、従来にもまして、今後ますます求められていくと思われる。

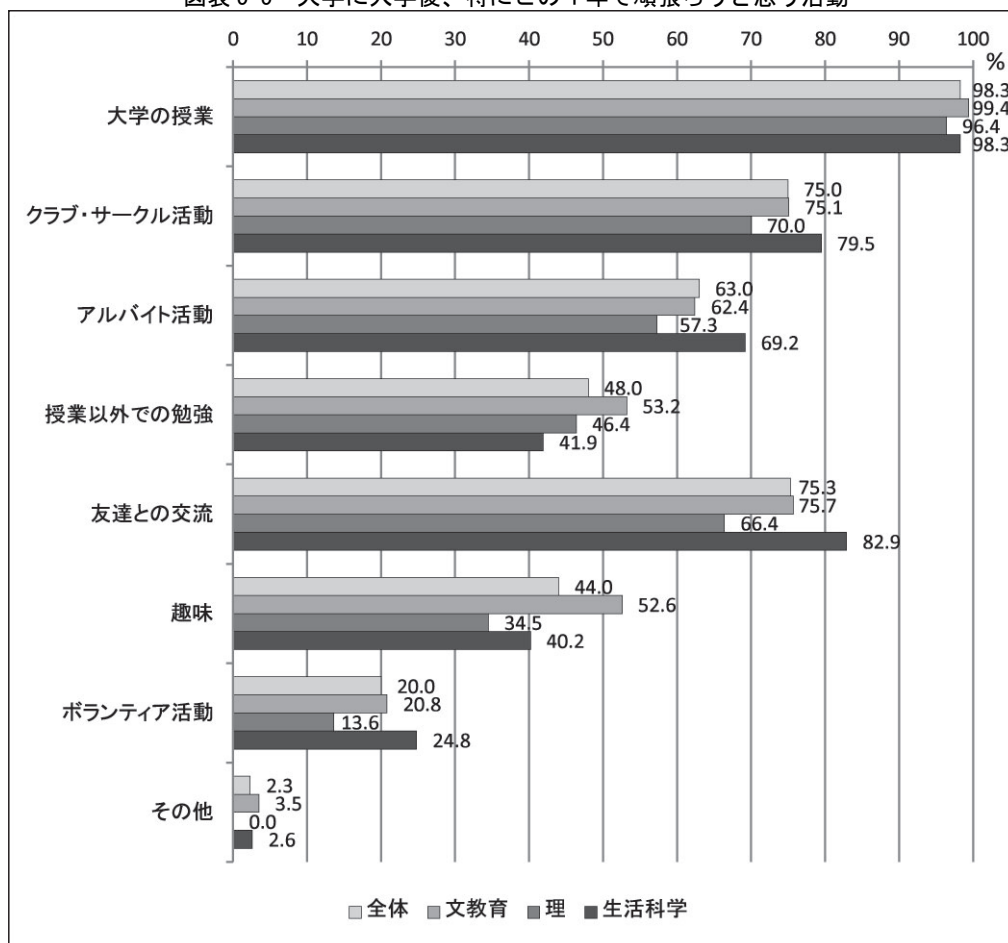
#### ⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

図表 5-5 は、大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

「大学の授業」は全体の 98.3%の学生が回答しており、学部別にみても、大多数の新入生が「大学の授業」を頑張ろうと思っていることが示されている。この傾向は、平成 23 年度新入生でも同様にみられたものである（お茶の水女子大学 2011b, P22 参照）。

他にも、「友達との交流」「クラブ・サークル活動」の回答率が全体の 7 割を超えているが、これらの活動では、生活科学部の学生の回答率の高さが目立っている。こうした傾向は、平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P22 参照）。

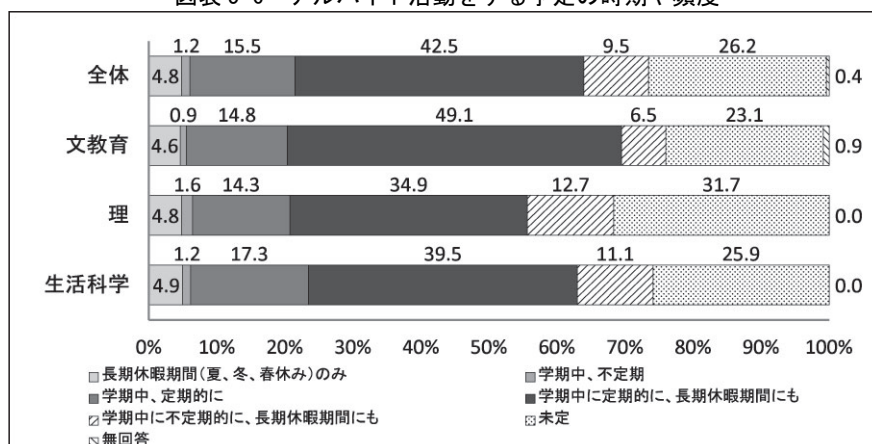
図表 5-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動



## ⑥アルバイト活動の予定

図表 5-6 は、大学入学後のアルバイト活動をする予定の時期や頻度について、アルバイト活動をする予定のある者に対して尋ねた結果である。

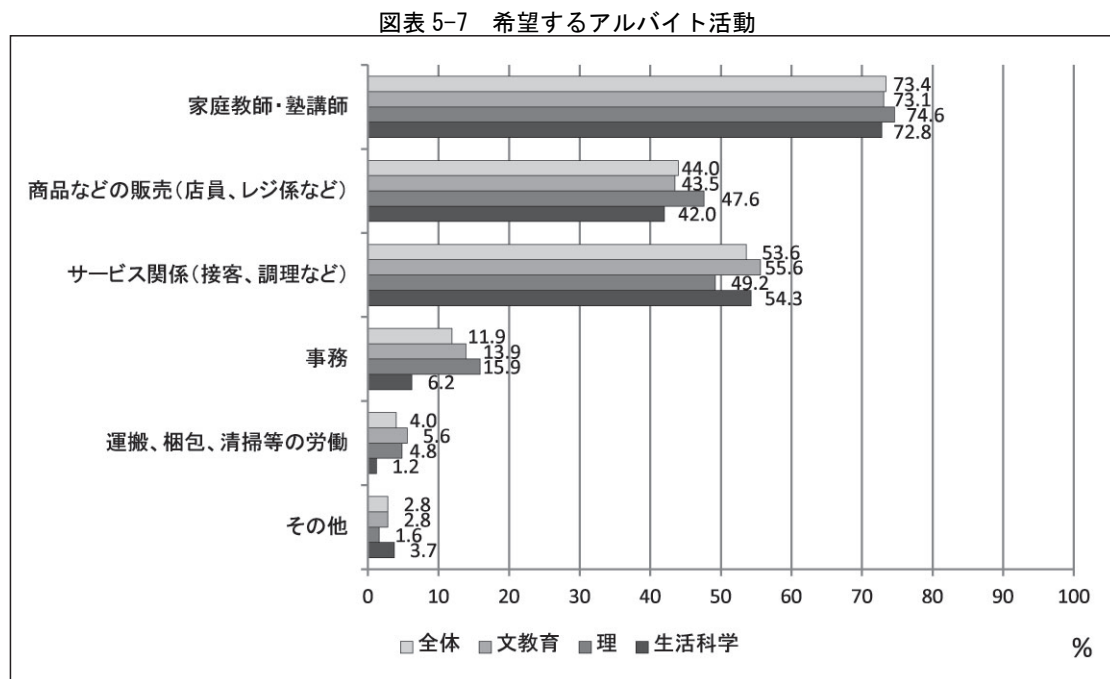
図表 5-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度



全体でみると、「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」との回答が最も多く 4 割を超えている。平成 23 年度新入生でも「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」との回答が

最も多くみられたが、過半数を超えるものであった（お茶の水女子大学 2011b, P23 参照）。

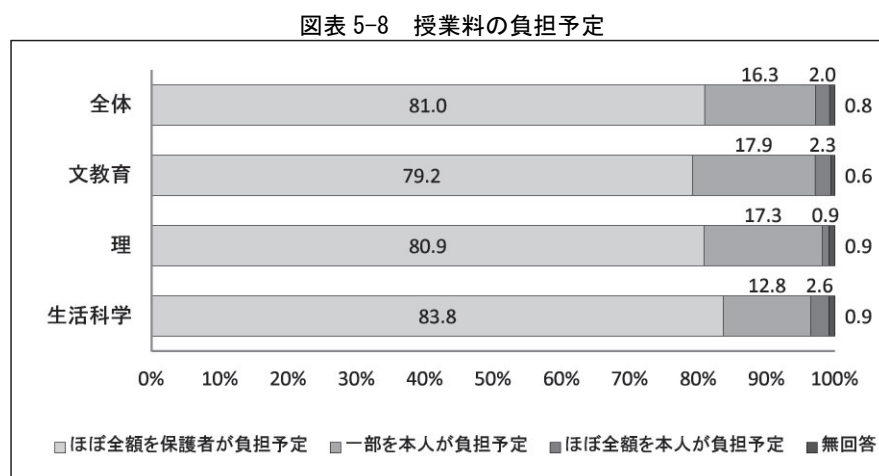
さらに、希望するアルバイト活動について、アルバイト活動をする予定のある者に対して、複数回答可として尋ねた結果が図表 5-7 である。



全体で見ると、「家庭教師・塾講師」が最も多く 7 割を超えており、次いで、「サービス関係」「商品などの販売」が半数程度に及ぶ結果となっている。平成 23 年度新入生でも同様の順であった（お茶の水女子大学 2011b, P24 参照）。

## ⑦授業料の負担予定

図表 5-8 は、授業料の負担予定について、「ほぼ全額を保護者が負担予定」「一部を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」の中から尋ねた結果である。

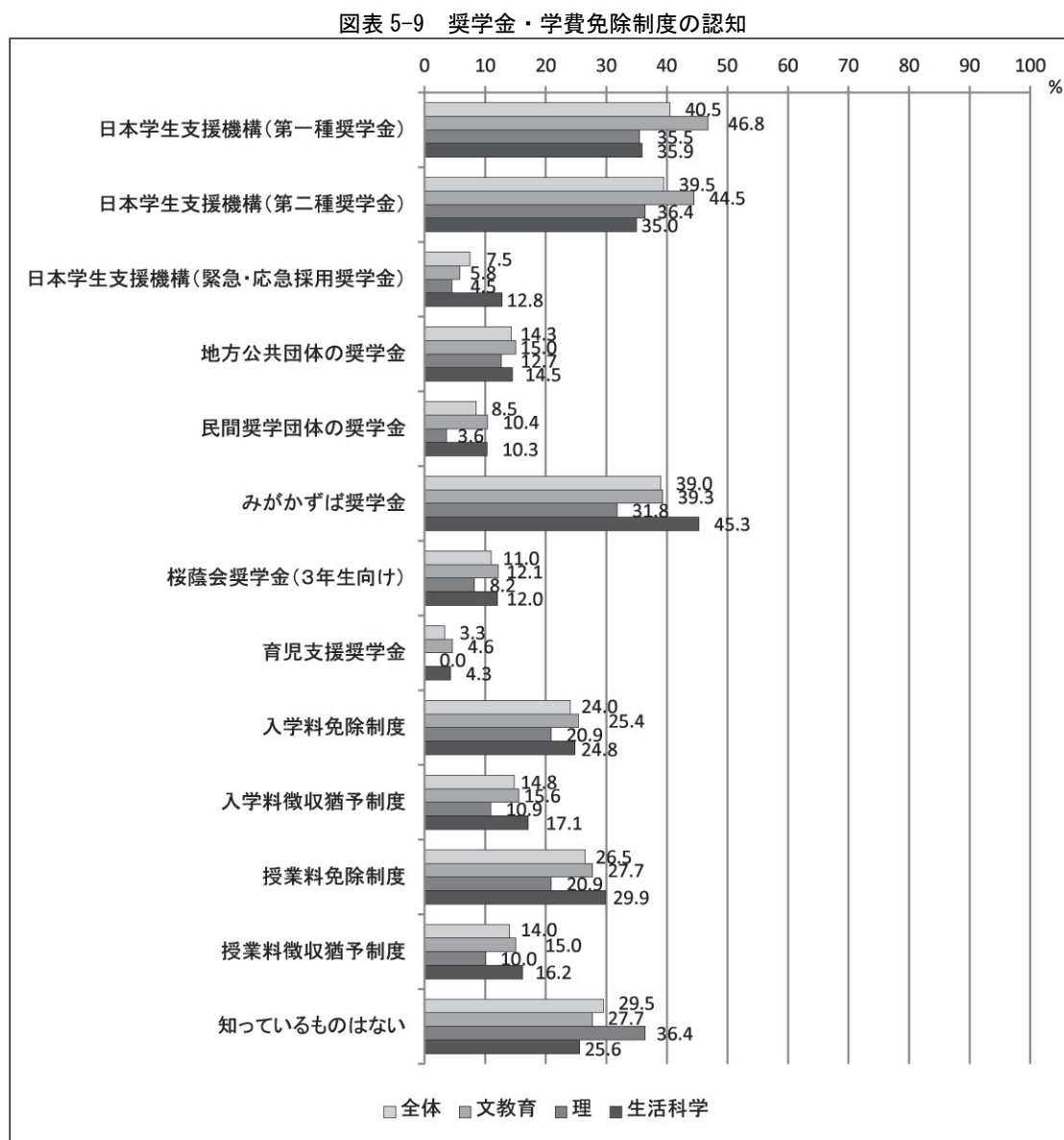


平成 23 年度新入生同様、いずれの学部においても「ほぼ全額を保護者が負担予定」が目立ち、「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」は極めて少ない結果と

なった（お茶の水女子大学 2011b, P24 参照）。

## ⑧奨学金・学費免除制度の認知

図表 5-9 は、奨学金・学費免除制度の認知について、本学独自の制度も含め、複数回答可として尋ねた結果である。



日本学生支援機構による奨学金の認知率は、第一種・第二種ともに、他の制度に比べて高く、全体のおよそ 4 割が認知している。中でも、文教育学部での認知率の高さが目立つ。これらの結果は、平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P25 参照）。

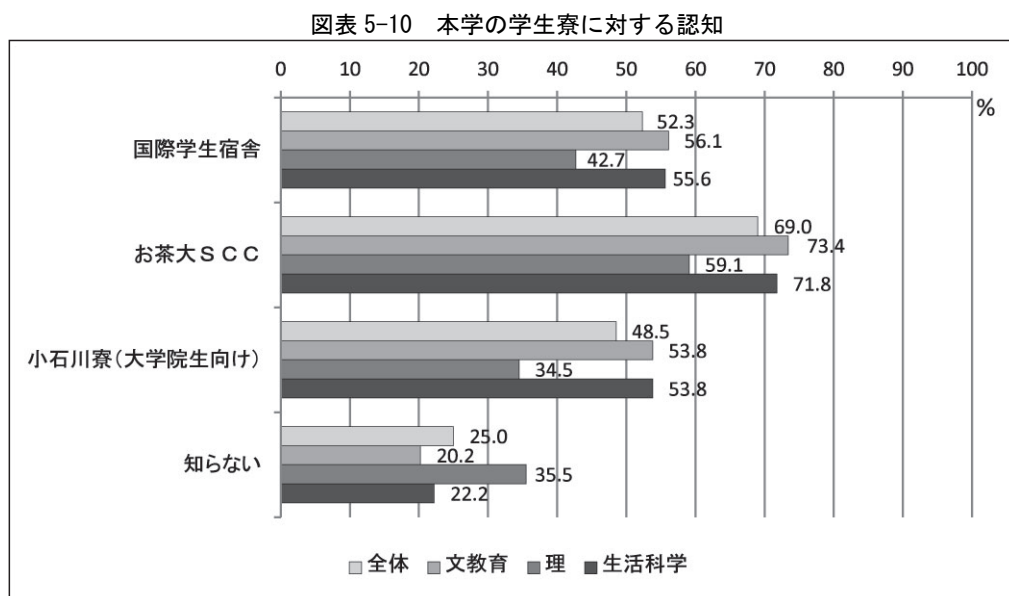
特筆すべきは、本学独自の奨学金として、昨年度よりスタートした予約型奨学金制度である「みがかずば奨学金」であり、その認知率は、全体の 39.0%、生活科学部では 45.3% に及んでいる。平成 23 年度新入生の認知率は、全体の 32.3% であったことから、その拡がりもうかがえる（お茶の水女子大学 2011b, P25 参照）。

その一方で、「知っているものはない」も全体のおよそ 3 割でみられ、中でも理学部が目立つ。この結果は、平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P25 参照）。



### ⑨本学の学生寮に対する認知

本学には、国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（1・2 年生対象）、小石川寮（院生対象）がある。図 5-10 は、これらの本学の学生寮に対する認知について、複数回答可として尋ねた結果である。



平成 23 年度新入生では、いずれの寮に対してもおよそ半数程度の認知率であったが（お茶の水女子大学 2011b, P25-26 参照）、今年度新入生ではお茶大 SCC の認知が顕著に高まり、およそ 7 割に及んでいる。

その一方で「知らない」は全体の 25.0%、理学部では 35.5%にも及んでいる。こうした傾向は、奨学金・学費免除制度に対する認知の状況でも同様にみられた（図表 5-9 参照）。今後、理学部の学生がこうした支援を必要としていないがゆえの認知状況であるのか、情報不足による認知状況であるのかなど、検討していく必要があるだろう。

### ⑩大学生活での不安・心配事

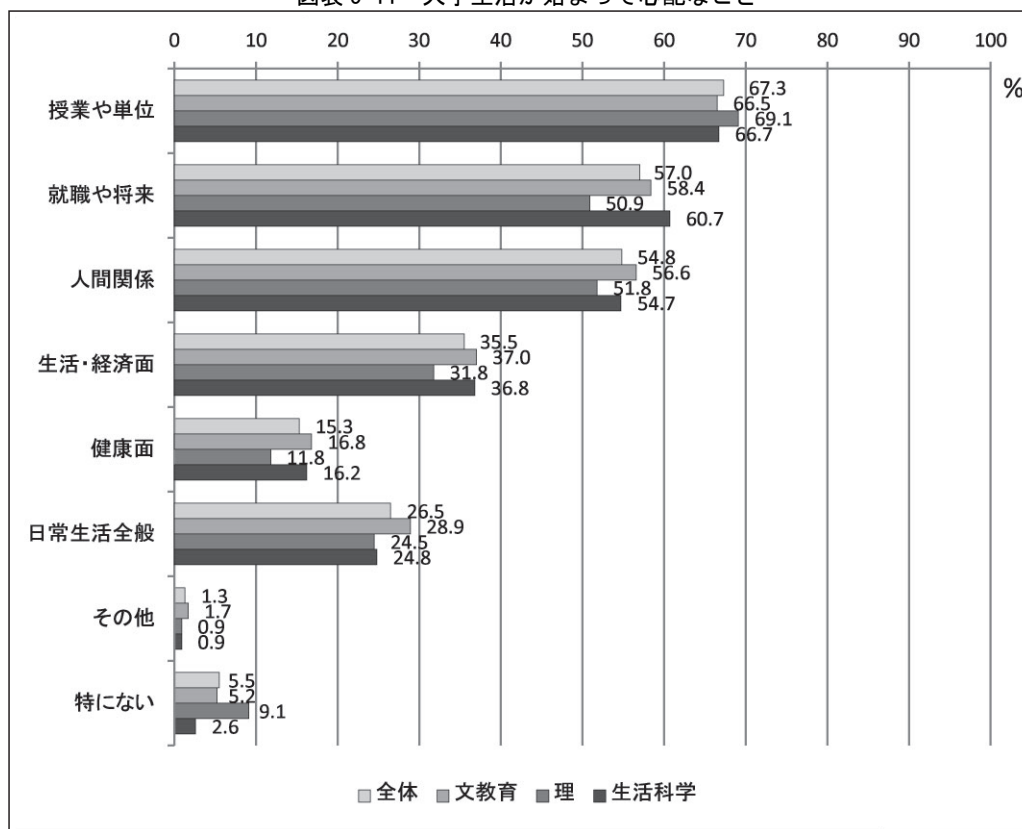
図表 5-11 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。

全体でみると、「授業や単位」「就職や将来」「人間関係」の順で多く、これらの項目は半数を超える回答率となっている。こうした結果は、平成 23 年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2011b, P26-27 参照）。

学部別にみると、平成 23 年度新入生では、これらいずれの項目でも理学部で高い傾向がみられたが（お茶の水女子大学 2011b, P26-27 参照）、今年度新入生では「就職や将来」「人間関係」に関しては他学部よりもむしろ低い結果となっている。

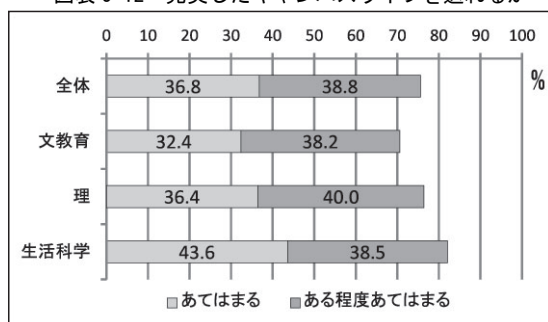
一方、「特になし」は全体の 5.5%に過ぎないが、理学部では 9.1%に及んでおり、他学部に比べて高いことも示されている。

図表 5-11 大学生活が始まって心配なこと

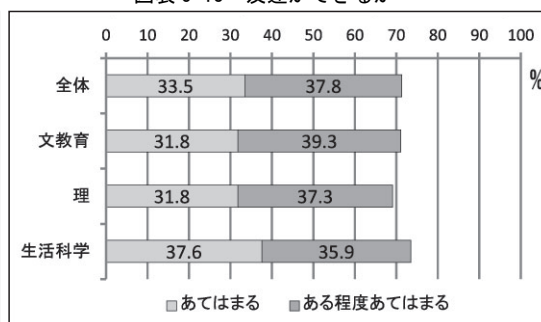


さらに、大学入学後の不安や心配事に関する 8 項目を設定し、それぞれについて 4 件法で尋ね、全体での該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）が 70%を超えている項目は以下の 4 項目であった（図表 5-12 から図表 5-15）。

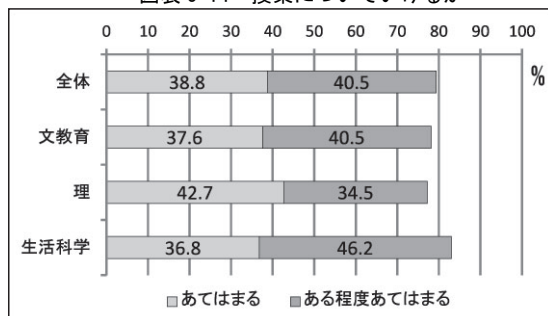
図表 5-12 充実したキャンパスライフを送れるか



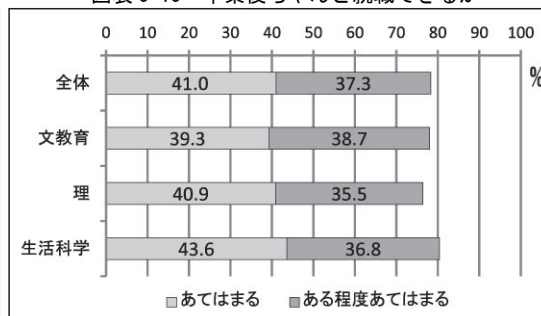
図表 5-13 友達ができるか



図表 5-14 授業についていけるか



図表 5-15 卒業後ちゃんと就職できるか

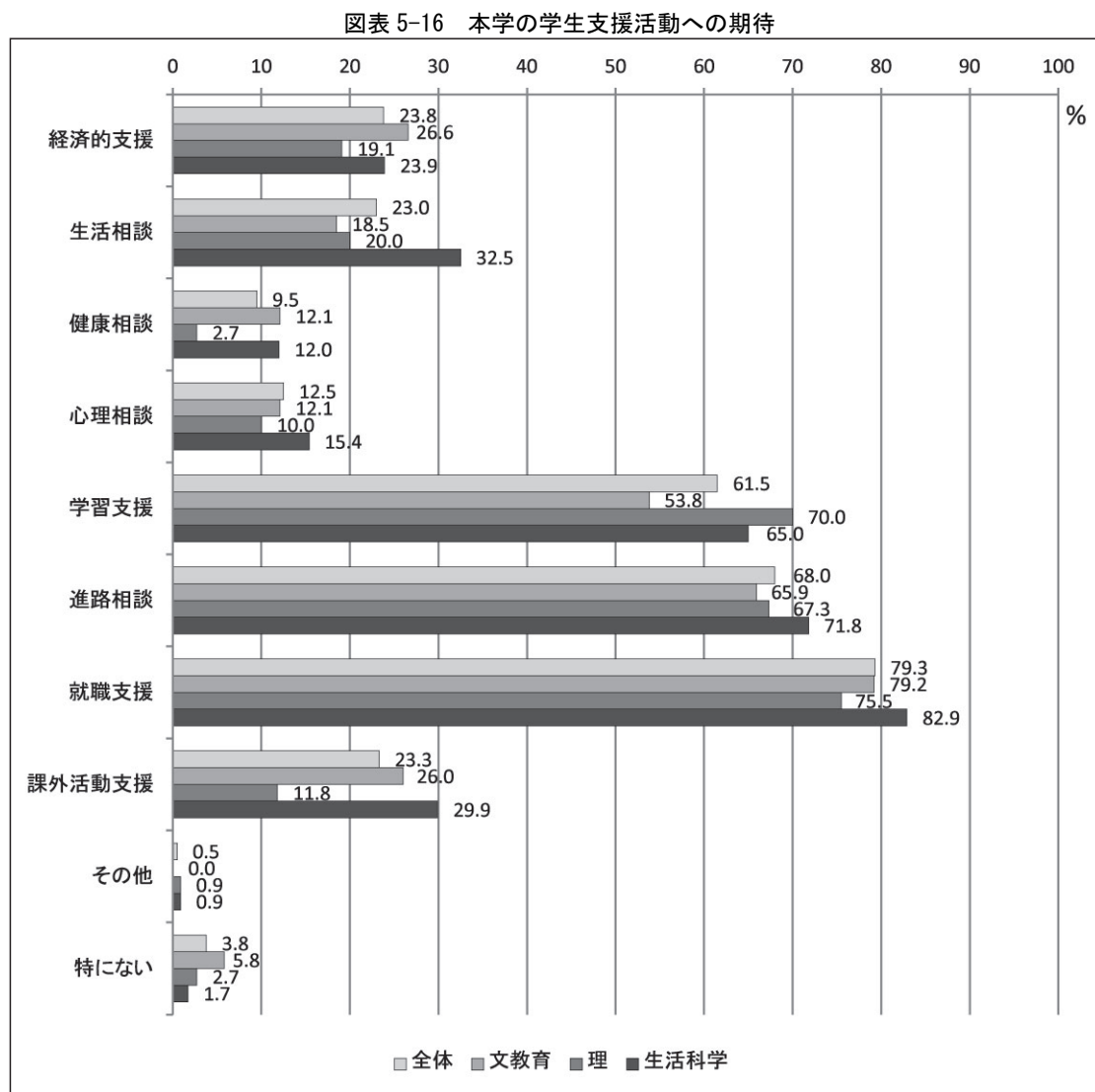




全体でみると、「授業についていけるか」「卒業後ちゃんと就職できるか」がおよそ 8 割に及び、次いで「充実したキャンパスライフを送れるか」「友達ができるか」が続いている。平成 23 年度新入生では、これらのいずれの項目でも理学部の高さが示されていたが（お茶の水女子大学 2011b, P27 参照）、今年度新入生では、学部による大きな差異はみられない。

#### ⑪本学の学生支援活動への期待

図表 5-16 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねたものである。



全体でみると、「就職支援」が最も多くおよそ 8 割に及んでいる。次いで「進路相談」「学習支援」が続くが、この順は平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P28 参照）。

在学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」では、本学の学生支援活動で足りないところとして、「就職支援」や「進路相談」の高さが示されている

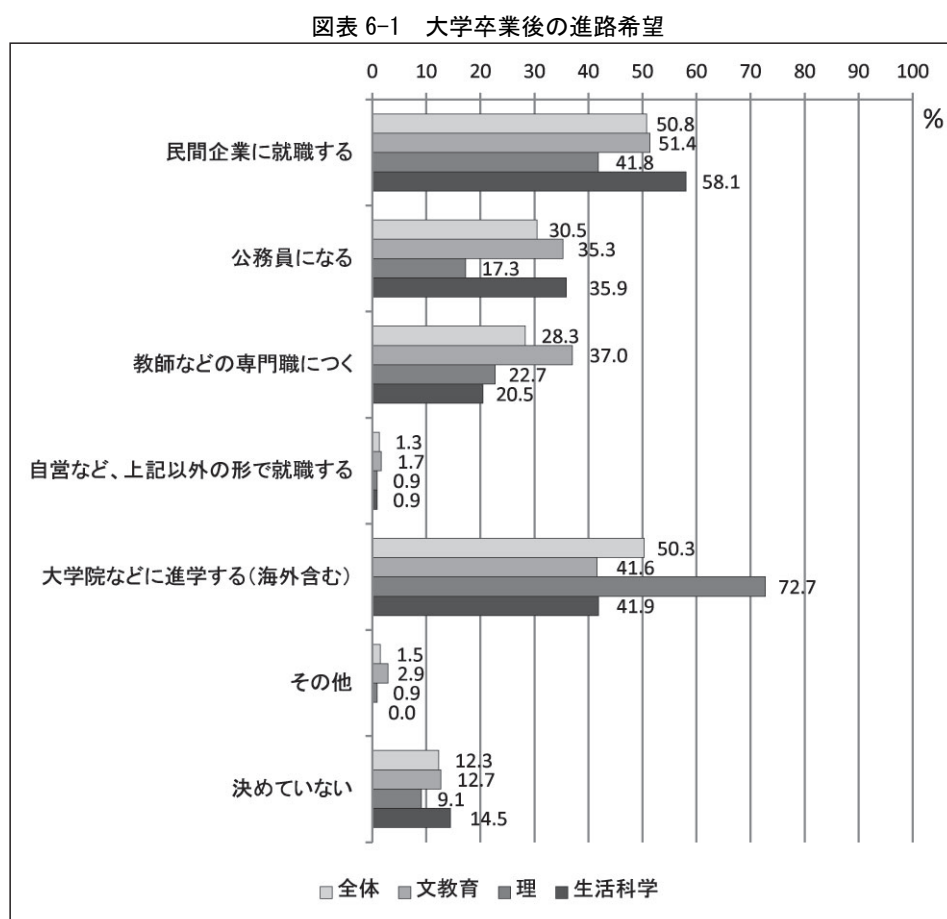
(お茶の水女子大学 2011, P36-37)。新入生の期待からみても、在学生の不満からみても、本学の学生支援活動として、これらの支援には特に力を入れていく必要があると思われる。

## (6) 将来の進路

本節では、本学新入生の将来の進路について、①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③将来の職業選択や就職にむけての取り組み、④就職や将来に関する親の関与から示していく。

### ①大学卒業後の進路希望

図表 6-1 は、大学卒業後の進路希望について、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、複数回答可として尋ねたものである。



全体でみると、「民間企業に就職する」「大学院などに進学する（海外含む）」が半数を超えているが、「大学院などに進学する（海外含む）」に関しては、理学部では7割を超える一方で、生活科学部や文教育学部では4割程度といった学部による傾向がみられる。この傾向は、平成23年度新入生でも同様にみられた（お茶の水女子大学2011b, P29 参照）。

ただし、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」によれば、本学に在学する学部生が大学入学時に「進学」を希望していたのは、理学部51.2%、生活科学部24.9%、文教育学部20.8%であり（お茶の水女子大学2011, P50）、今年度の入学者の進路希望とは隔たりがみられる。

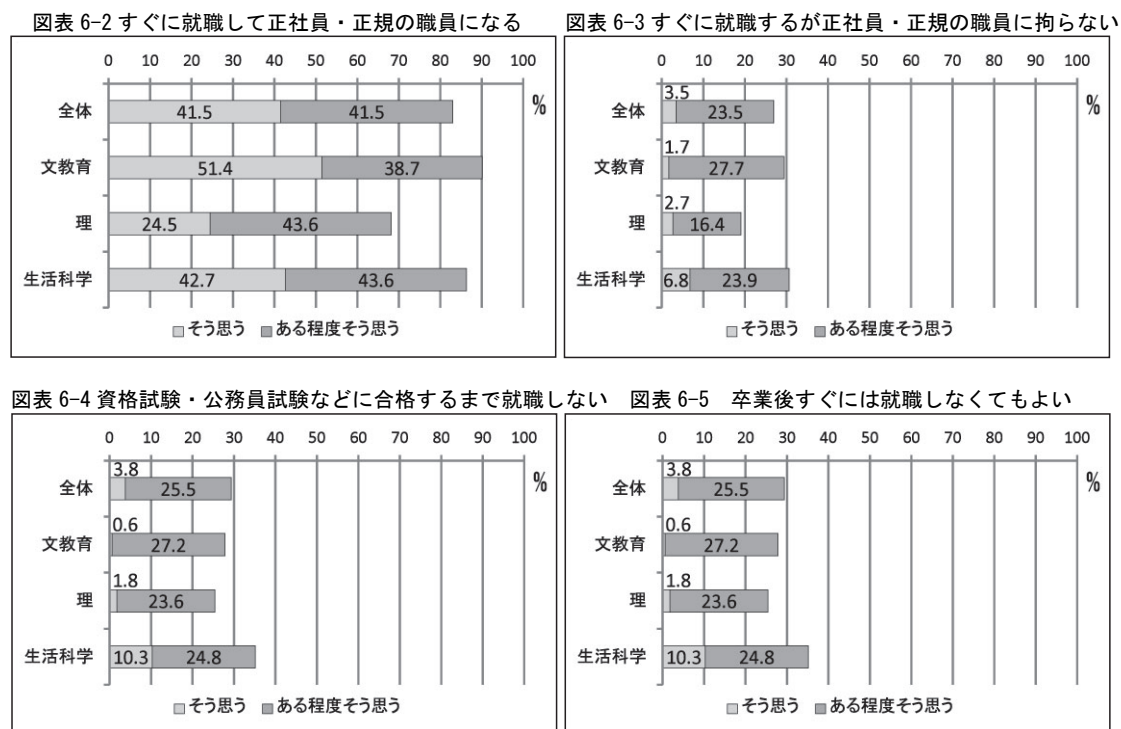
これらの進路希望に次いで、「公務員になる」「教師などの専門職につく」が続くが、この順も平成23年度新入生とはほぼ同様である（お茶の水女子大学2011b, P29 参照）。

また、「決めていない」が全体の12.3%に過ぎないことから、本学の新入生は、大学入学時点で、卒業後の進路について、ある程度の希望を持っている学生が多数であることがわかる。この傾向も、平成23年度新入生でも示されている（お茶の水女子大学2011b, P29 参照）。

## ②大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学大学経営・政策研究センターが 2007 年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について 3 件法で尋ね、その該当率（「そう思う」＋「ある程度そう思う」）を示した結果が、図表 6-2 から図表 6-10 である。

まず図表 6-2 から図表 6-5 は、「卒業後の就職」について尋ねた 4 項目についての結果である。



平成 23 年度新入生同様、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」は学部による差異傾向が示されている（お茶の水女子大学 2011b, P30 参照）。さらに今年度新入生では、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」でも学部による差異傾向がみられた。具体的にいえば、他学部に比べて理学部では「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」が低く、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」が高い傾向がみられる。

「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」84.7%、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」37.7%、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」31.8%、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」30.8%であり、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」の本学新入生の該当率の低さ、換言すれば、大学卒業後すぐの正規雇用志向がうかがえる。

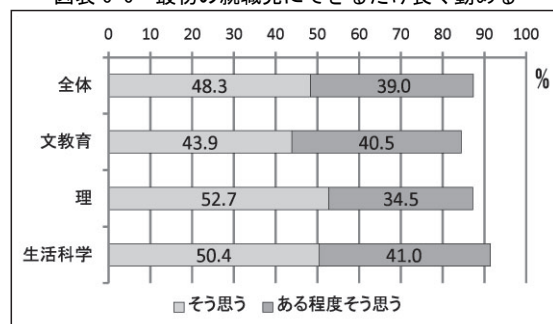
続いて、図表 6-6 から図表 6-8 は、「就職後の勤務・退職」について尋ねた 3 項目についての結果である。

いずれの項目も学部による該当率の差異傾向は大きくはみられず、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」は全体のおよそ 9 割に及んでいる。その一方で、「何年かして転職や独立をする」「結婚・出産したら仕事をやめる」は 3 割程度にとどまっており、「そう思う」との回答は極めて少数であることも示されている。これらの結果は、平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P30 参照）。

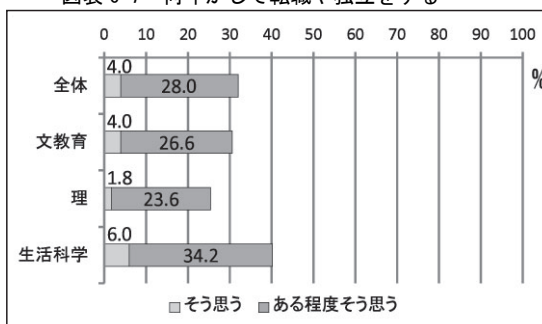
「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「最初の就職先にできるだけ長く勤め

る」83.3%、「何年かして転職や独立をする」55.1%、「結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）」38.1%であり、「何年かして転職や独立をする」の本学新入生の該当率の低さ、換言すれば、安定志向がうかがえる。

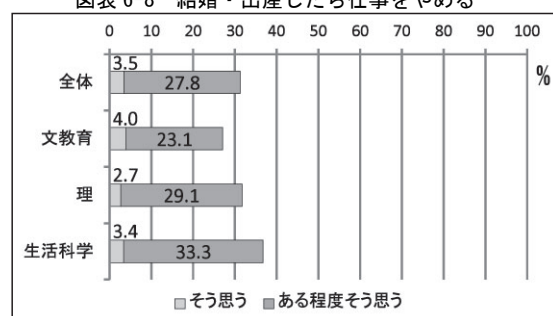
図表 6-6 最初の就職先にできるだけ長く勤める



図表 6-7 何年かして転職や独立をする

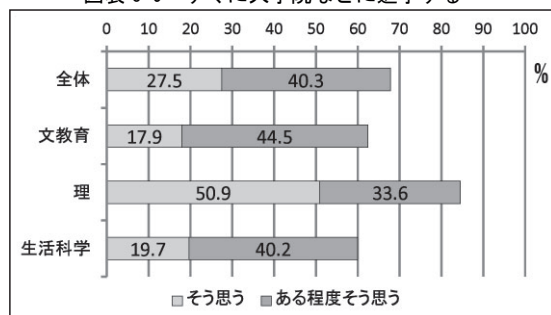


図表 6-8 結婚・出産したら仕事をやめる

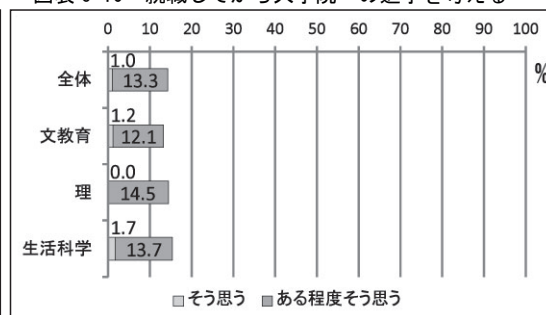


さいごに、図表 6-9 および図表 6-10 は、「卒業後・就職後の大学院進学」について尋ねた 2 項目についての結果である。

図表 6-9 すぐに大学院などに進学する



図表 6-10 就職してから大学院への進学を考える



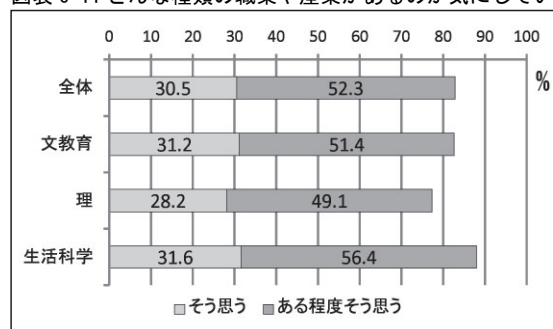
「すぐに大学院などに進学する」は、全体のおよそ 7 割であるが、学部により差異傾向がみられ、理学部は他学部比べて明らかに高い。これに対し「就職してから大学院への進学を考える」は、学部により大きな差異傾向はみられなかった。これらの結果は、平成 23 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P31 参照）。

「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「すぐに大学院などに進学する」45.7%、「就職してから大学院への進学を考える」26.3%であり、「すぐに大学院などに進学する」の本学新入生の該当率の高さがうかがえる。

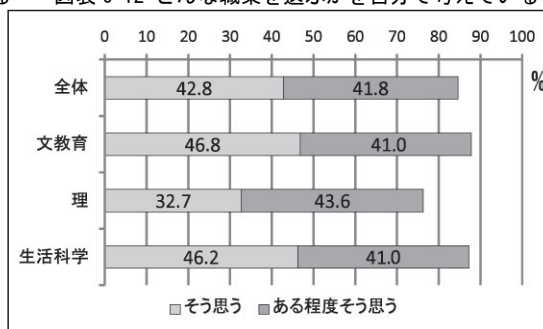
### ③将来の職業選択や就職にむけての取り組み

「将来の職業選択や就職にむけての取り組み」に関する 15 項目について 5 件法で尋ねた結果、全体で 70%を超える該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）は、以下 4 項目であった（図表 6-11 から図表 6-14 参照）。

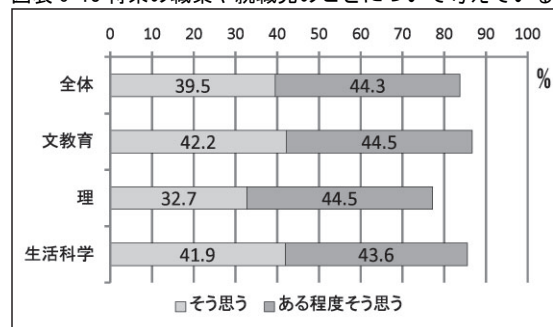
図表 6-11 どんな種類の職業や産業があるのか気にしている



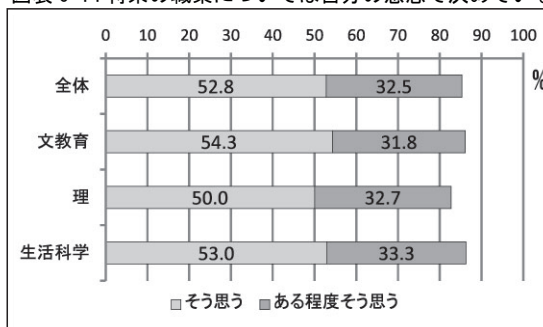
図表 6-12 どんな職業を選ぶかを自分で考えている



図表 6-13 将来の職業や就職先のことについて考えている



図表 6-14 将来の職業については自分の意思で決めている

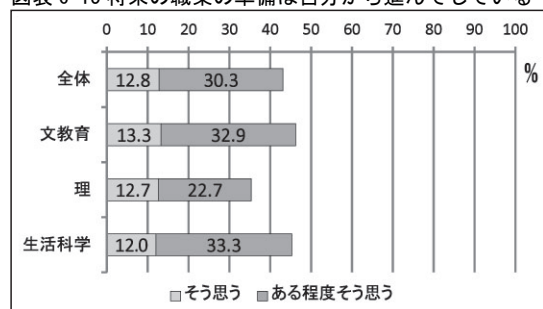


就職先や職業に対する関心が高く、その選択・決定についての自律性も高い者が多いことがうかがえる。これらの傾向は、平成 23 年度新入生でもほぼ同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P31-32 参照）。

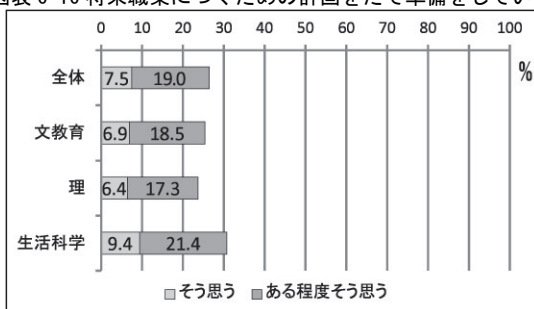
他方、全体で 40%以下の該当率は以下 5 項目であった（図表 6-15 から図表 6-19 参照）。

本学の新入生は、希望する職業につくためのビジョンをもち、就職にむけての計画や準備、具体的な検討まですすめている者はまだ少ないものと思われる。これらの傾向は、平成 23 年度新入生でもほぼ同様に示されている（お茶の水女子大学 2011b, P32-33 参照）。

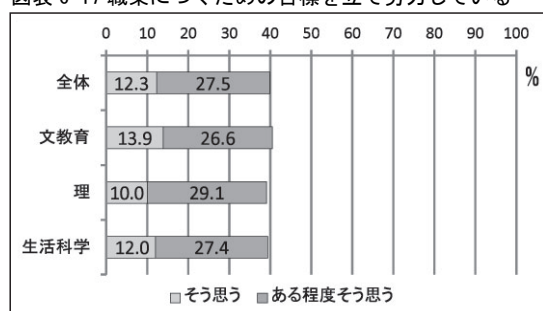
図表 6-15 将来の職業の準備は自分から進んでしている



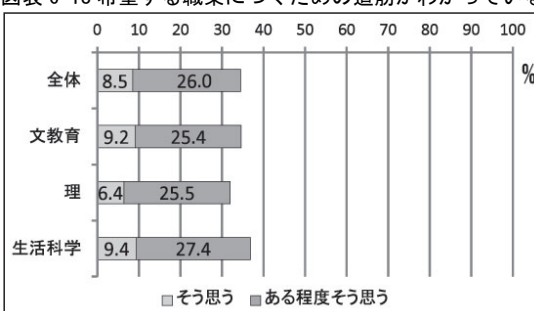
図表 6-16 将来職業につくための計画をたて準備をしている



図表 6-17 職業につくための目標を立て努力している

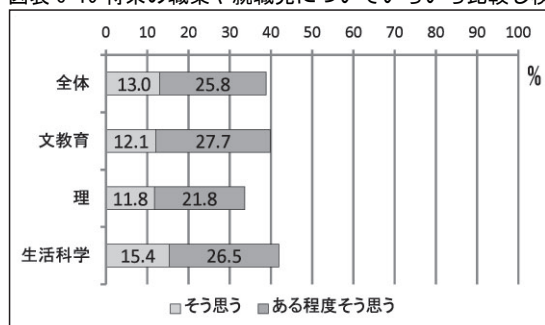


図表 6-18 希望する職業につくための道筋がわかっている





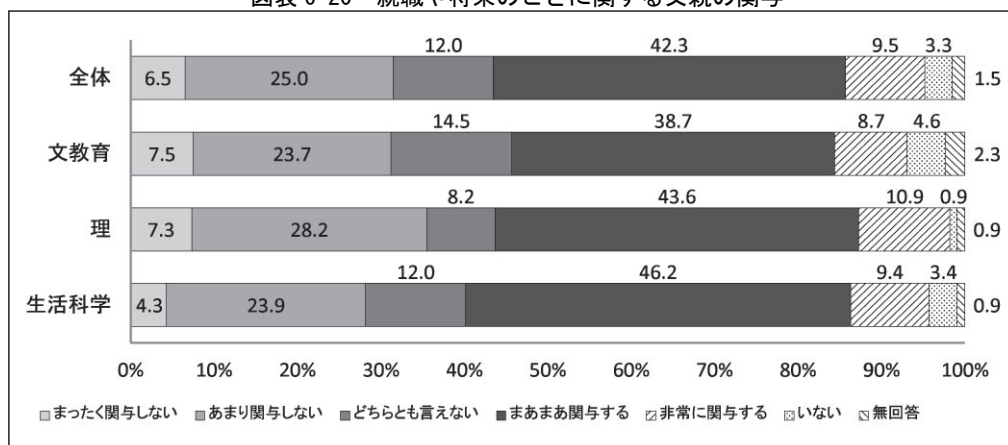
図表 6-19 将来の職業や就職先についていろいろ比較し検討している



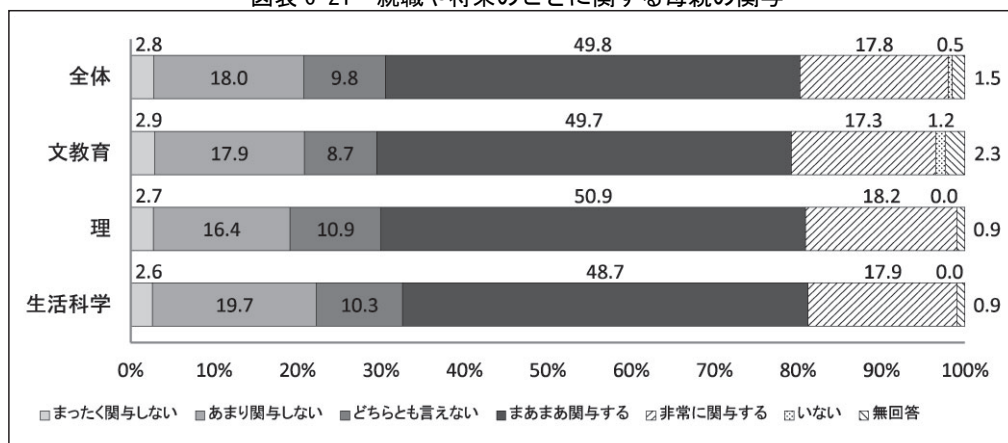
#### ④就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関して、図表 6-20 は父親の関与を、図表 6-21 母親の関与を 5 件法で尋ねた結果である。

図表 6-20 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 6-21 就職や将来のことに関する母親の関与



本学の新入生は、就職や将来のことに関して、全体のおよそ半数が父親の関与がある（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」と回答し、全体のおよそ 2/3 が母親の関与があると回答しており、父親・母親ともに学部別にみてもその傾向に大差はない。

これらの結果は、平成 23 年度新入生でも同様に示されていたものであり（お茶の水女子大学 2011b, P34 参照）、大学卒業後の進路に対する支援を行う際には、保護者の存在も視野に入れ、保護者とともに支援にあたるのが有益な支援につながると考えられる。